

社会保育学科

<社会保育科目>

区分		科目名	頁
専門基礎分野	子どもの健康	感染微生物学	1
		公衆衛生学	2
		医療概論	3
		食生活論	4
	社会保育の理念	子どもの権利	5
		人権と法	6
		家族社会学	7
		社会福祉概論	8
		社会保育論	9
専門分野	社会保育	保育システム論	10
		保育経営論	11
		社会保育論演習	12
		保健医療福祉連携論	13
	保育の基礎理論	保育原理	14
		教育原理	15
		教職概論(幼稚園)	16
		子ども家庭福祉Ⅰ	17
		子ども家庭福祉Ⅱ	18
		子ども家庭支援論	19
		社会的養護Ⅰ	20
		保育者論	21
		幼児教育史	22
		教育法概論	23
		生涯学習論	24
	保育の対象理解	発達心理学	25
		子ども教育心理学	26
		子どもの保健	27
		子どもの食と栄養	28
		子ども家庭支援の社会・心理学	29
	保育の内容の方法	保育指導論	30
		保育内容総論	31
		保育内容・言葉	32
		保育内容・人間関係Ⅰ	33
		保育内容・人間関係Ⅱ	34
		保育内容・環境Ⅰ	35
		保育内容・環境Ⅱ	36
		保育内容・健康Ⅰ	37
		保育内容・健康Ⅱ	38
		保育内容・表現Ⅰ	39
		保育内容・表現Ⅱ(音楽)	40
		保育内容・表現Ⅱ(造形)	41
		保育内容・表現Ⅱ(言語)	42

<社会保育科目>

区分	科目名	頁	
専門分野	保育の内容の方法	乳児保育Ⅰ	43
		乳児保育Ⅱ	44
		就学児保育A（思春期の支援）	45
		就学児保育B（学童保育）	46
		病児・病後児保育	47
		子どもの健康と安全	48
		社会的養護Ⅱ	49
		子育て支援	50
		子ども理解と教育相談	51
		児童文化演習	52
		自然保育実践演習	53
	保育の教材研究	生活	54
		国語	55
		音楽Ⅰ	56
		音楽Ⅱ（ピアノ）	57
		音楽Ⅱ（ギター）	58
		図画工作Ⅰ	59
		図画工作Ⅱ	60
		体育	61
		児童文化	62
	障がい児の保育・教育	特別な教育的ニーズの理解とその支援	63
		障がい児福祉	64
		障害児支援の基礎理論	65
		知的障害者の心理・生理・病理	66
		肢体不自由者の心理・生理・病理	67
		病弱者の心理・生理・病理	68
		知的障害者教育課程論	69
		知的障害者教育方法論	70
		肢体不自由者教育課程論	71
		肢体不自由者教育方法論	72
		病弱者教育論	73
		視覚障害者教育総論	74
		聴覚障害者教育総論	75
重複障害・発達障害の評価		76	
重複障害・発達障害の教育		77	
障害児教育実習事前事後指導		78	
障害児教育実習	79		
保育の実践	保育指導論演習	80	
	家庭支援実践演習	81	
	地域との協働Ⅰ	82	
	地域との協働Ⅱ	83	
	地域との協働Ⅲ	84	

<社会保育科目>

区分		科目名	頁
専門分野	保育の実践	教育実習	85
		教育実習指導	86
		保育実習Ⅰ	87
		保育実習指導Ⅰ	88
		保育実習Ⅱ	89
		保育実習指導Ⅱ	90
		保育実習Ⅲ	91
		保育実習指導Ⅲ	92
	研究専門	卒業研究	93
		教職・保育実践演習	94

科 目 名	感染微生物学				
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。				
学 習 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。 感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。				
授 業 の 概 要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御				
授 業 の 留 意 点	予習では、教科書の該当部分を読んでおくこと。 復習では、配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。理解できない事項がある場合は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院				

科 目 名	公衆衛生学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。				
授業の概要	<p>「公衆衛生学」は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。健康の概念、公衆衛生の目的について理解し、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて学ぶ。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の歴史（外国） 2 公衆衛生の歴史（日本）／疫学の基本事項① 3 疫学の基本事項②／衛生統計 4 健康水準・健康指標 5 感染症とその予防 6 食品と栄養 7 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 8 医療制度（行政、資源、医療費） 9 地域保健（保健所と市町村保健センター） 10 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 11 学校保健 12 生活習慣病 13 難病と精神保健 14 産業保健（労働衛生） 15 健康危機管理（災害と健康） 				
授業の留意点	<p>他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。予習は講義前に教科書の赤字キーワードなどを確認しておくこと。課題を取組んだ後は、見直し復習すること。</p> <p>※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔（ハイフレックス形式）へ変更の場合有。</p>				
学生に対する評価	<p>課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う。</p> <p>※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。</p>				
教科書（購入必須）	<p>清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2022/2023年）</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	医学概論				
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。				
学習到達目標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができることを目標とする。				
授業の概要	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、前半では人体の解剖生理の基本的な知識を学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を応用して、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。さらに、リハビリテーションの概要および国際生活機能分類を理解する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達 2 老化 3 身体構造と心身の機能 (1) 細胞、体液、循環器 4 身体構造と心身の機能 (2) 泌尿器・呼吸器 5 身体構造と心身の機能 (3) 消化器・神経 6 身体構造と心身の機能 (4) 内分泌器官・生殖器 7 身体構造と心身の機能 (5) 支持運動器官・皮膚 8 身体構造と心身の機能 (6) 免疫・感覚器 9 疾病の概要 (1) 生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患 10 疾病の概要 (2) 高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患 11 疾病の概要 (3) 消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨関節疾患 12 疾病の概要 (4) 感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア 13 障害の概要 (1) 視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害 14 障害の概要 (2) 認知症、高次機能障害、精神障害 15 リハビリテーションの概要、国際障害分類から国際生活機能分類への変遷 				
授業の留意点	<p>予習では、教科書の該当部分を読んでおくこと。</p> <p>復習では、構造と機能の関連に注意しながら配布資料を通読し、理解できない部分をはっきりさせること。さらに、理解できない部分は、次回の講義やムードルで担当教員に質問すること。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験（100点）により評価する。</p> <p>定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。</p>				
教科書（購入必須）	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（予定）				
参考書（購入任意）	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第4版』医学書院（2015年）				

科 目 名	食生活論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目				
学 習 到 達 目 標	幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。				
授 業 の 概 要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食変遷を確認する。 後半は日本における食文化を概観し、地域家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食生活状況 4 地域における幼児児童生徒の栄養・食生活状況 5 家庭食の変遷 6 学校給食の変遷 7 日本の食文化・地域の食文化 8 幼児・児童生徒の食物アレルギー 9 「食事バランスガイド」について 10 地場産物と給食① 11 地場産物と給食② 12 演習①関心のある地域の地場産物を食べる 13 演習②給食における地場産物の活用を考える 14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える 15 演習④地場産物についての発表、レポート提出 				
授 業 の 留 意 点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。				
学 生 対 する 評 価	小テスト 20 点・発表レポート 20 点・毎回毎授業の振り返りレポート 60 点により総合的評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜、資料等を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	子どもの権利				
担 当 教 員 名	栞山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	子どもの権利とそれに関する法制度について知る。 子どもの人権問題に対し、法的に取り組む視点を学ぶ。				
授 業 の 概 要	子どもの人権に関する日本の法制度ならびにその現状について学ぶ。講義の前半では、子どもに関する法規の中で最も基本的かつ重要な「子どもの権利条約」についてとりあげる。後半では、現代日本の子どもの人権問題とそれに対応する法制度について解説する。子どもの人権問題に取り組むのに、個人の努力では限界がある。子どもの法的権利とそれにまつわる制度について学んだうえで、国の支援を得ることが必要である。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス 2 「子どもの人権」のコンセプト 3 子どもの権利に関する法：日本国憲法、子どもの権利条約、その他関連法律 4 子どもの権利条約①：条約の成立背景、履行制度 5 子どもの権利条約②：条約の基本原則および主な規定 6 子どもの権利条約③：条約の主な規定 7 子どもの権利条約④：日本政府の報告書審査(第1回～第2回) 8 子どもの権利条約⑤：日本政府の報告書審査(第3回～第4・5回) 9 子どもの人権問題①：いじめ 10 子どもの人権問題②：体罰 11 子どもの人権問題③：虐待 12 子どもの人権問題④：障害のある子ども 13 子どもの人権問題⑤：子どもの貧困 14 子どもの人権問題⑥：少年司法 15 子どもの人権問題⑦：外国人の子ども 				
授 業 の 留 意 点	私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「日本国憲法」「教育法概論」のいずれとも関連が深い。特に「教育法概論」と併せて履修してもらおうことを強く望む。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。 予習・復習としては、後述の参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。法令や関連文書を読むことにも慣れてもらいたい。				
学 生 に 対 す る 評 価	期末試験(100%)。加点措置として小テスト等を実施する場合もある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著『子どもの権利ガイドブック【第2版】』(明石書店、2017) ・姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015) ・喜多明人ほか編『逐条解説 子どもの権利条約』(日本評論社、2009) ・『解説 教育六法』(三省堂、各年度版) そのほか参考文献を適宜紹介する。				

科目名	人権と法				
担当教員名	栢山 茂樹				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解する。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。				
授業の概要	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。人権問題について、ジャーナリスティックな評論ではなく法学の専門的見地から学んでもらう。 現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識や公共心をどれだけ備えているかが試されているのである。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス、憲法に対する誤解を解く 2 憲法総論：国家・憲法・法律 3 人権と憲法上の権利 4 外国人の人権①：入管法のしくみ 5 外国人の人権②：マクリーン事件ほか 6 外国人の人権③：ヘイトスピーチ 7 私人間効力論：三菱樹脂事件ほか 8 プライバシー権・信教の自由：公安テロ情報流出事件 9 自己決定権：エホバの証人輸血拒否事件、安楽死・尊厳死、向井亜紀事件 10 法の下での平等：婚外子法定相続分規定 11 法の下での平等・婚姻の自由：女性の再婚禁止期間 12 ジェンダー・婚姻の自由：夫婦同氏訴訟 13 LGBTの人権：府中青年の家事件、同性婚訴訟 14 表現の自由：立川反戦ビラ訴訟 15 少数民族の権利：二風谷ダム事件 				
授業の留意点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、同一内容の回もあることをお断りしておく)。併せて受講してもらうことを強く望む。「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。 予習・復習としては、後述の参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。条文・判例を読むことにも慣れてもらいたい。				
学生に対する評価	期末試験(100%)。加点措置として小テスト等を実施する場合もある。				
教科書(購入必須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。				
参考書(購入任意)	<p>独習用のテキストとして、以下を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋谷秀樹『憲法を読み解く』(有斐閣、2021) ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018) ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第3版』(三省堂、2015) ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第6版』(有斐閣、2019)：旧版も参照。 <p>そのほか、参考文献を適宜紹介する。</p>				

科 目 名	家族社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	1. 現代家族の成立の歴史についての基本的知識を得る。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。				
授 業 の 概 要	社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。家族社会学は社会学の一分野であり、様々な家族問題を深く理解し、実践に活かすために参照される学問である。授業では、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、制度、人権、福祉、倫理など様々な視角から家族事象を考察し、家族の多様化とそれにまつわる諸問題を社会構造に関わらせながら理解あるいは解明していく力を養うことを目指す。				
授 業 の 計 画	1 家族ってなに？家族って誰？（1）あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？（2）誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生（1）近代家族の特徴 4 近代家族の誕生（2）近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ（1）家族の変容 6 近代家族の揺らぎ（2）家族を選択する時代 7 家族の現在（1）家族に何を求めるか 8 家族の現在（2）自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族（1）恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族（2）近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係（1）生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係（2）父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場（1）自由を制限するもの 14 生殖技術と市場（2）自由と自己責任 15 コ・ハウジング				
授 業 の 留 意 点	・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。 ・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する（100点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2016年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	社会福祉概論				
担当教員名	小山 貴博				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、制度や実施体系、子ども福祉、子どもの人権、家庭支援、貧困問題について学ぶ。				
学習到達目標	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。社会福祉と子ども福祉および子どもの人権や家庭支援との関係性について理解する。さらに、貧困問題を取り上げ、私たちの暮らしの中で貧困問題が他人事ではないことも併せて理解する。そして社会福祉の制度や実施体系等について理解する。最後に社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解したうえで、社会福祉の動向と課題について理解する。				
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、制度や実施体系等について理解する。社会福祉と子ども福祉および子どもの人権や家庭支援との関係性について学ぶ。さらに、貧困問題が私たちの暮らしの中において、現実的な問題であることについて学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン：社会福祉とは何か（保育と社会福祉） 2 平和・人権・福祉 3 社会福祉の基本理念および法体系 4 私たちの暮らしの現実と社会福祉①-日本社会における貧困問題の概要- 5 私たちの暮らしの現実と社会福祉②-女性の貧困 - 6 私たちの暮らしの現実と社会福祉③-孤独死- 7 私たちの暮らしの現実と社会福祉④-奨学金問題- 8 子ども家庭福祉① 9 子ども家庭福祉② 10 高齢者の生活問題と社会福祉 11 障がい者の生活問題と社会福祉 12 社会福祉施設 13 社会保障および関連制度の概要 14 社会福祉援助の意義と方法 15 海外の社会福祉、まとめ 				
授業の留意点	<p>(1) 社会福祉問題（生活問題、少子・高齢化問題、障がい者問題、貧困問題等）に焦点をあて現状の認識を深め、今後の社会福祉の課題や展開について考える。</p> <p>(2) 講義中に関係無い私語は、他学生の講義を受ける権利を侵害するため、厳禁とする。</p>				
学生に対する評価	筆記試験（100%）※3分の2以上の出席が大前提である。				
教科書（購入必須）	授業の中で適宜紹介する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	社会保育論				
担 当 教 員 名	長津 詩織・猪熊 弘子・小山 貴博				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	社会的な視点から子育てや保育をめぐる諸問題についての理解を深め、社会で子どもを育てること／子どもが社会で育つことの意義を各自の視点から説明できる。				
授 業 の 概 要	本学科の名称でもある「社会保育」を考える科目として、社会と保育との関連を検討する。社会からみた保育／保育からみた社会の両方の視点をもつことにより、現代社会における子ども・保育・子育ての意味とその課題をより深く理解し、実践へとつなぐことを意識する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（長津） 2 社会からみた保育／保育からみた社会（長津） 3 保育ニーズの多様化①保育の今を考える（長津） 4 保育ニーズの多様化②親の就労と保育（長津） 5 保育ニーズの多様化③保育の地域差（長津） 6 保育ニーズの多様化④学童保育（長津） 7 ジェンダーと保育①（長津） 8 ジェンダーと保育②ディベート（長津） 9 社会における保育者の位置（長津） 10 ここまでのまとめ（長津） 11 保育制度の現状と課題①（猪熊） 12 保育制度の現状と課題②（猪熊） 13 子育ての社会保障①（猪熊） 14 子育ての社会保障②（猪熊） 15 まとめ：社会保育とは（長津） 				
授 業 の 留 意 点	これまでの講義等で学んだ保育政策・制度全般について、基礎的事項を復習しておくこと。毎回のテーマを確認し、それに関連した近年の動向（新聞記事等）を調べておくこと。授業は対面、状況によってオンデマンドやオンライン双方向で実施。				
学 生 に 対 す る 価 値	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内でのリアクションペーパー：30% ・グループワークでの取り組み：20% ・最終レポート：50% 				
教 科 書 (購入必須)	講義時に資料等を用意する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	保育システム論				
担 当 教 員 名	長津 詩織・小山 貴博				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	日本における保育システムの歴史的変遷、現状、課題、将来的な方向等を論理的、客観的に明らかにすることができる。				
授業の概要	本講義では、保育をめぐる状況の変化から保育システム変動の時期を迎えている現在の状況をふまえ、保育政策・制度などの視点から、保育システムの歴史的変遷と現代の動向および課題について学び、考察する。また、諸外国の制度・政策を視野に入れ、日本の保育制度・政策についての検討も行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス 2 保育システムとは① 3 保育システムとは② 4 働きながら子育てする① 5 働きながら子育てする② 6 社会のなかの保育者 7 ここまでのまとめ 8 子ども・子育て新制度の背景 9 子ども・子育て新制度の実際① 10 子ども・子育て新制度の実際② 11 子ども・子育て新制度の実際③ 12 諸外国の保育システム 13 これからの保育システム① 14 これからの保育システム② 15 まとめ 				
授業の留意点	これまでの講義等で学んだ保育政策・制度全般について、基礎的事項を復習しておくこと。毎回のテーマを確認し、それに関連した近年の動向（新聞記事等）を調べておくこと。授業は対面、状況によってはオンライン双方向で実施します。				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・最終レポート：50点 ・毎回のリアクションペーパー：30点 ・グループワークへの取り組み：20点 				
教科書（購入必須）	講義時に資料等を用意する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	保育経営論				
担 当 教 員 名	長津 詩織				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>(1) 現在の保育施設に求められる役割や、関連する制度など、保育施設をめぐる構造的な背景を理解する。</p> <p>(2) 多様な生き方や価値観（世代・ジェンダー・障がいなど）に対する理解を深め、多様な個性をもつ保育者と子ども・保護者にとってよりよい施設運営をするために、必要な知識を獲得する。</p>				
授業の概要	<p>保育の質は、保育者個々の責任に帰するものではなく、経営のあり方にも大きく左右される。この授業では、保育環境を保証する安定した経営、保育ニーズの分析、各園の保育の根幹となる保育方針・計画の策定、コンプライアンス、多様な個性を持つ保育者の活用、専門性の向上を保証する研修等、保育所や幼稚園の経営に必要な事項を扱う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 保育事業の特徴 3 保育事業に関わる組織・団体 4 保育施設の管理運営①事業計画、地域ニーズと経営 5 保育施設の管理運営②保育方針・計画 6 保育施設の管理運営③人事労務管理・採用と人材育成 7 保育施設の管理運営④人事労務管理・就業管理と労働時間 8 保育施設の管理運営⑤人事労務管理・賃金制度と賃金管理 9 保育施設の管理運営⑥リスクマネジメント 10 保育施設の管理運営⑦リーダーシップ 11 保育施設の管理運営の実際①幼稚園、保育所、認定こども園 12 保育施設の管理運営の実際②地域型保育 13 保育施設の管理運営の実際③夜間保育 14 諸外国の保育施設の管理運営 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>これまでの講義で学んだ保育施設の種類や保育制度について復習しておくこと。 毎回の授業予定を確認し、それに関連する近年の情勢（新聞記事等）を調べておくこと。</p>				
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー：20% ・講義内での提出物：80% 				
教科書（購入必須）	講義時に資料等を用意する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	社会保育論演習				
担 当 教 員 名	長津 詩織・小山 貴博・鈴木 勲				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所等で臨床経験を持つ教員が、保育や子どもを幅広い視野で捉え、社会と保育との関わりを理解する視点を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	体験的・能動的な学びにより、子育て環境の整備、保護者支援、保育に関する社会の責任等、「社会保育」の現状と課題を実践レベルで明らかにすることができる。				
授 業 の 概 要	「社会保育論」での学修を踏まえ、実践レベルで「社会保育」の実現に向けた取り組みを考える。社会と保育との関わりを体験的に学ぶフィールドワークを通して、社会で子どもが育つ／育てることの意味や、その現代的な課題について考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 演習計画作成①内容検討 3 演習計画作成②グループワーク 4 フィールドワーク企画 5 フィールドワーク準備 6 フィールドワーク実施（前半）① 7 フィールドワーク実施（前半）② 8 フィールドワーク実施（前半）③ 9 フィールドワーク中間報告・後半へ向けて 10 フィールドワーク実施（後半）① 11 フィールドワーク実施（後半）② 12 フィールドワーク実施（後半）③ 13 フィールドワーク振り返り 14 報告会 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	フィールドワークは教員の提案を元にして、学生の意見も取り入れながら実施する。保育をより広い視点で捉えるにあたって知りたいことを考えておくこと。 実施方法：対面、場合によっては遠隔。				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物 40 点、フィールドワークへの取り組み 60 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし				
参 考 書 (購 入 任 意)	適宜提示する				

科 目 名	保健医療福祉連携論				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、専門職連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対する総合的な視野を広げることを到達目標とする。				
授業の概要	<p>1 学年を数グループに分割したグループ別講義及び演習を行う。各専門職の役割を互いに理解し、そこから専門職連携の実践に向けての課題や取組の方向性についてグループワークを行う。検討したことを整理し、全体報告会で発表し、本学の連携教育科目の総まとめとして仕上げていく。全体報告会後のカンファレンスは、グループメンバー1人ずつが集まり、質疑応答を行うため、すべてのメンバーが各グループの活動について理解しておくことが必要となる。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、一部または全部を遠隔授業とし、グループ分けを行わずに全員が同じ内容の講義・演習を受講した上で、毎回の授業の小レポートの共有や、最終のグループワークにより意見交換および学びの共有を行い、グループワークによる進行の場合と同様の到達目標に達することを目指すこととする。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、グループ分け 2 グループ別活動（1） 3 グループ別活動（2） 4 グループ別活動（3） 5 グループ別活動（4） 6 グループ別活動（5）報告会の準備 7 全体報告会 8 全体カンファレンス 				
授業の留意点	<p>グループ毎に開講日が異なるため、各自が出席すべき日時および教室等に留意すること。</p> <p>各学科の講義や実習の事情により、出席すべき日時に不都合が生じた場合は速やかに担当教員と連絡を取り、教員と共に対処方法を検討すること。</p> <p>遠隔授業の場合は、グループ分けを行わず、双方向授業またはオンデマンド授業などの方法を組み合わせて実施する。授業に関する連絡はメールで行うため、日々メールの確認を行うこと、通信機材の準備を整えておくことが必要である。</p>				
学生に対する評価	毎回の小レポート 40 点および最終レポート 60 点により評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科目名	保育原理				
担当教員名	及川 智博・高島 裕美				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針等を読解し、そのなかで示されている保育の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度について理解し、説明することができる。 ・保育の思想とその歴史の変遷について理解し、説明することができる。 ・乳幼児の発達理解に関する理論とその歴史の変遷について理解し、説明することができる。 ・現在の保育と子ども、子育てにおける課題について考察し、その解決方法について説明することができる。 <p>なお、「授業計画」の各項目間にある理論的な整合性に気付き、保育という営みを構造的に理解してほしいと考える。</p>				
授業の概要	<p>現行の保育制度と法規を十分に理解したうえで、保育の意義・目的、保育思想、保育内容や方法についての基本的な知識を身に付ける。さらに、具体的な事例を用いて、現在の保育と子ども、さらに子育てにおける課題を把握し、その解決方法を主体的に考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：「保育」とは何か 2 保育者・保育施設に求められる役割と倫理①：子どもの最善の利益と保育 3 保育者・保育施設に求められる役割と倫理②：子ども家庭福祉と保育 4 現行の保育制度の基本的理解①：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について 5 現行の保育制度の基本的理解②：「子ども・子育て支援新制度」について 6 保育に関する法制度の歴史の変遷①：戦後～1980年代 7 保育に関する法制度の歴史の変遷②：1990年代～現在 8 保育思想の歴史①：保育観・子ども観の成り立ち 9 保育思想の歴史②：社会の変化と保育思想の転換 10 乳幼児の発達理解をめぐる歴史①：学習説としての「行動主義心理学」 11 乳幼児の発達理解をめぐる歴史②：生得説としての「児童心理学」 12 乳幼児の発達理解をめぐる歴史③：遺伝と環境の相互作用をとらえる「発達心理学」へ 13 現代の保育の課題とは何か①：保育施設と家庭・地域・学校・行政との連携・協働 14 現代の保育の課題とは何か②：子育て不安・ストレスと地域子育て支援事業の展開 15 保育における課題を解決するためには：グループワークによる意見交換 				
授業の留意点	<p>本講義は、学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って、重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は、「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。</p> <p>予習として、新聞記事やニュースなどを利用して普段から情報収集し、復習として、授業で扱ったキーワードやトピックについて、自分で文献等を調べることで、課題意識を高めることを推奨する。これらの活動が、普段の講義や期末試験の準備学習として位置付く。</p>				
学生に対する評価	筆記試験（90%）、授業への参加状況（提出物の内容、関心・意欲・態度）（10%）				
教科書（購入必須）	厚生労働省、2018『平成30年3月 保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省、2018『平成30年3月 幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府ほか、2018『平成30年3月 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教育原理				
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の教育を、歴史的・思想的・制度的な視点から理解し、説明することができる。 ・学校教育の制度ならびに内容・方法について理解し、説明することができる。 ・教育における現代的課題を理解し、これからの教育を考える視角を得る。 				
授業の概要	<p>教育に関する基礎理論や思想を取り上げるとともに、学校教育の成り立ちや歴史の変遷、教育実践の内容・方法について学ぶ。また、現代の子ども・家庭や地域・学校教育が抱える問題について具体的な事例をもとに理解し、その解決に当たる教員に求められる資質・力量、役割についても考察する。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションー「教育」について学ぶ前にー 2 家庭における子育てと教育 3 子どもをどのように捉えるかー子ども観の歴史ー 4 教育の思想と歴史① 教育方法の歴史 5 教育の思想と歴史② 近代日本の教育思想と歴史 6 幼児教育の思想と歴史 7 学校の歴史と仕組み 8 教育課程・カリキュラムの変遷 9 子ども中心主義の思想と学校 10 授業と学習指導 11 教育の評価 12 学力とは何か 13 教師の成長 14 教育の現代的課題と学校 15 まとめー学校・教育の諸問題を解決するためにー 				
授業の留意点	<p>基本的には講義形式で進めるが、映像資料等を用い特定のテーマについて議論するなど、学習者それぞれが自分の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。</p> <p>予習として、新聞記事やニュースなどを利用して普段から情報収集し、復習として、授業で扱ったキーワードやトピックについて自分で文献等を調べることで、課題意識を高めておいてほしい。これらの活動は、普段の講義やそのなかでの議論、さらに期末レポート課題の準備学習として位置付く。</p>				
学生に対する評価	<p>期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）により評価する。</p>				
教科書（購入必須）	<p>特に指定しない。</p>				
参考書（購入任意）	<p>授業のなかで、適宜紹介する。</p>				

科 目 名	教職概論（幼稚園）				
担 当 教 員 名	棚橋 裕子・高島 裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼児理解を基盤とし、幼稚園教諭としての専門性や役割について、保育実践に則した指導を行う科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員・保育者に求められる仕事と役割の歴史の変遷について理解し、説明することができる。 ・現代の教員・保育者に求められる資質・能力、期待される役割について理解したうえで、教員・保育者の専門性について自分なりの考えを持つ。 ・学校・保育施設の役割の多様化を理解し、教職の意義や多職種との連携・協働の在り方について自分なりの考えを持つ。 				
授 業 の 概 要	<p>時代の移り変わりとともに、教員・保育者に期待される役割や、実際の職務内容・範囲は大きく変化してきた。一方で、教職には、いつの時代も変わらない（不易の）役割が存在する。この両面について、具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また、学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し、上記をふまえたうえで、教員・保育者の専門性、多職種との連携・協働の在り方について考察する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクション 2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム、教員免許・保育士資格の意義 3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設 4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続 5 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法 6 教員・保育者の仕事と役割②：子どもの遊びから 7 教員・保育者の仕事と役割③：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（1） 8 教員・保育者の仕事と役割④：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（2） 9 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務 10 教員・保育者にかかわる制度・法律②：労働者としての教員・保育者 11 教員・保育者をめぐる諸問題①：教育・保育に求められる役割の変化、教職における「不易と流行」 12 教員・保育者をめぐる諸問題②：教職員集団の変化（多職種との連携・協働等）、子ども集団の変化 13 教員・保育者をめぐる諸問題③：教員・保育者をめぐる労働問題 14 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク 15 教員・保育者の専門性とは②：まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。</p> <p>予習として、新聞記事やニュースなどを利用して普段から情報収集し、復習として、授業で扱ったキーワードやトピックについて、自分で文献等を調べることで、課題意識を高めておいてほしい。これらの活動は、普段の講義やそのなかでの議論、さらに期末レポート課題の準備学習として位置付く。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	中間レポート（50点）、期末レポート課題（50点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	授業のなかで適宜紹介する。				

科 目 名	子ども家庭福祉 I				
担 当 教 員 名	長津 詩織・鈴木 勲				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
授 業 の 概 要	「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また、子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。				
授 業 の 計 画	1 子ども家庭福祉の理念と概念 2 子ども家庭福祉の歴史の変遷 3 子どもの人権擁護 4 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5 母子保健と子どもの健全育成 6 多様な保育ニーズへの対応 7 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止 8 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 9 障害のある子どもへの対応 10 少年非行等への対応 11 少子化と地域子育て支援 12 子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難 13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14 子ども家庭福祉の施設と専門性 15 地域における連携・協働とネットワーク				
授 業 の 留 意 点	前半は基本的な理念や理論を踏まえることを重点に取り上げるため、教科書を用いて授業を進める。後半は子ども虐待等様々な問題を抱える家族を考え、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作る。また、新聞記事などのプリントも配布して使用する。対面、場合によっては遠隔。				
学 生 に 対 す る 評 価	最終レポート 70点、講義内での提出物等 30点				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)	ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房 川並他編「保育者養成のための子ども家庭福祉」大学図書出版				

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ				
担 当 教 員 名	小山 貴博				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容	<p>児童相談所・乳児院・児童家庭支援センター等での実務経験を有する非常勤講師（吉見）、児童相談所・児童養護施設・児童家庭支援センター等での実務経験を有する非常勤講師（長野）、児童自立支援施設等での実務経験を有する非常勤講師（藤原）、児童相談所等での実務経験を有する非常勤講師（渡辺）、児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターでの実務経験を有する教員と児童家庭支援センター等での実務経験を有するゲスト・スピーカー（高橋・矢野）による、多様で特別な支援を必要とする子どもと家庭を理解し、地域社会に根差す視点を養うための科目</p>				
学習到達目標	<p>多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭を理解して、関わり方および課題を学ぶ。子どもの最善の利益の保障がどのように地域で取り組まれているかの実践を紹介し、子ども家庭福祉の視野を広げる。</p>				
授業の概要	<p>多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭の課題を理解し、介入や支援を行うことができる。子どもの最善の利益を地域で保障する実践について理解し、子ども家庭福祉の観点から対応することができる。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：子ども家庭福祉実践と援助技術 2 子育てとは何か：心理学における個人的ドキュメントとしての育児日記の利用法 3 地域で取り組む社会的養護(1)：児童養護施設（美深育成園長 兼 美深子ども家庭支援センター長 長野正稔） 4 地域での実践から学ぶ(1)：子ども理解の実際—児童用心理検査法（Baumtest、PF スタディ）—（美深育成園長 兼 美深子ども家庭支援センター長 長野正稔） 5 地域で取り組む社会的養護(2)：乳児院（札幌乳児院 兼 札幌乳児院児童家庭支援センター長 吉見香） 6 地域での実践から学ぶ(2)：乳幼児家庭支援の実際（札幌乳児院 兼 札幌乳児院児童家庭支援センター長 吉見香） 7 地域で取り組む社会的養護(3)：児童家庭支援センター（美深子ども家庭支援センター相談員 高橋知見） 8 地域での実践から学ぶ(3)：子ども家庭支援の実際（美深子ども家庭支援センター相談員 高橋知見） 9 地域で取り組む社会的養護(4)：児童自立支援施設（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩） 10 地域での実践から学ぶ(4)：児童自立支援の実際（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩） 11 地域で取り組む社会的養護(5)：児童相談所（一時保護所）・里親（北海道旭川児童相談所長 渡辺典子） 12 地域で取り組む児童虐待(1)：児童虐待相談の実際（北海道旭川児童相談所長 渡辺典子） 13 地域で取り組む児童虐待(2)：児童虐待事例の検討 14 家族とは何か：子ども家庭における「家族療法」 15 まとめ：子ども家庭福祉にかかわるコンテンツの視聴 				
授業の留意点	積極的に授業や演習に参加し、対話的に深く学ぶことを期待する。				
学生に対する評価	授業での意欲・態度 20 点、講義時のリアクションペーパーや Moodle のフォーラムにアップされた感想 30 点、期末課題レポート 50 点により評価する。				
教科書（購入必須）	講義時に資料を配布する。				
参考書（購入任意）	<p>陳省仁・中塚孝・中島常安編著 糸田尚史ほか著 『子育ての発達心理学』 同文書院 坂本健編著 糸田尚史ほか著 『子どもの社会的養護』 大学図書出版 小山充道編著 糸田尚史ほか著 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版 中坪・山下・松井・伊藤・立花編集 『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』 ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	子ども家庭支援論				
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について講義し、家庭支援における保育者の役割について学ぶ科目				
学習到達目標	子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
授業の概要	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、家庭支援の意義について理解する。様々な機関の家庭支援の取り組みを学び、連携・協力のあり方を考察する。また、保育者として家庭支援を行っていくために必要な基本的態度について、実際の保育場面等をイメージしながら学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望 				
授業の留意点	教科書の該当箇所を事前に予習してくる事。 復習として、授業で取り上げられた内容に関して、実際の子育て支援等に結びつけて考える。				
学生に対する評価	期末レポート（70点）、リアクションペーパー（30点）により評価する。				
教科書（購入必須）	井村圭壮・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文舎、2015				
参考書（購入任意）	松原康雄・村田典子・南野奈津子編集 基本保育シリーズ第5巻『子ども家庭支援論』中央法規（2018年度中に出版予定） 西村重稀・青井夕貴編集 基本保育シリーズ第19巻『子育て支援』中央法規（2018年度中に出版予定）				

科 目 名	社会的養護 I				
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験をもとに、社会的養護の基礎、応用について教授する。				
学 習 到 達 目 標	1. 児童福祉施設における保育士の仕事と役割について学ぶ。 2. 社会的養護の原理や理念、仕組みについて理解する。 3. 社会的養護領域の事例を活用し、社会的養護を必要とする子どもについての理解を深める。				
授 業 の 概 要	社会的養護の基礎原理及び社会的養護下にある子どもの現状、児童福祉施設の役割を学び、養護を必要とする子どもの自立支援のための基礎知識を身に付けていくことを目的とする。また、社会的養護の基礎理念、社会的養護の法制度、子どもの権利擁護などの観点から授業を進めていく。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 2 子どもと家庭を取り巻く環境と社会的養護 3 社会的「養護」と子どもの権利「擁護」とは 4 要保護児童や要保護児童とは何か 5 児童福祉施設の機能と役割について 6 家庭と同様の養育環境の保障について 7 社会的養護の変遷について 8 社会的養護の理念と概念 9 社会的養護の基本原則 10 社会的養護の理論について 11 社会的養護のしくみと実施体制 12 社会的養護の専門職に求められる専門性と役割 13 被措置児童等の虐待防止 14 社会的養護の課題と地域福祉 15 全体のまとめと振り返り				
授 業 の 留 意 点	授業展開については、授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。 対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。 授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。 参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	学期末試験 100点 定期試験では全体的な基礎知識を問う。社会的養護に関する今日的な課題について、問題意識を持って受講するようにして下さい。				
教 科 書 (購 入 必 須)	中山正雄 監修 浦田雅夫 編著「よりそい支える社会的養護 I 第 2 版」教育情報出版 (ISBN 9784909378224)				
参 考 書 (購 入 任 意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。				

科 目 名	保育者論				
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・長津 詩織				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について講義し、保育における保育者の役割について学ぶ科目				
学 習 到 達 目 標	(1) 保育者の役割と倫理について理解する (2) 保育士の制度的な位置づけを理解する (3) 保育士の専門性について考察し、理解する (4) 保育者の協働について理解する (5) 保育者の専門職的成長について理解する				
授 業 の 概 要	保育者の社会的役割や倫理、職務内容について理解を深めるとともに、保育士の制度的位置づけや専門性、保育者に求められる連携や協働について学ぶ。また、保育実践から専門職者としての成長について考え、自らの目指すべき保育者像を追求する。 現代社会における保育者の役割について、制度や他の専門機関、家庭との関わりなどを踏まえながら学修する。また、保育者として必要とされる知識・技術や保育者の専門職としての成長について、事例等を通じながら学ぶことによって、社会的役割を果たすための保育者像について考える。				
授 業 の 計 画	1 保育者の役割と倫理（担当 傳馬） 2 保育士の制度的位置づけ（担当 傳馬） 3 保育士の専門性 養護と教育（担当 傳馬） 4 保育士の専門性 保育士の資質・能力（担当 傳馬） 5 保育と保護者支援にかかわる協働（担当 傳馬） 6 保育者の協働 専門職観及び専門機関との連携（担当 傳馬） 7 保育者の協働 保護者及び地域社会との連携（担当 傳馬） 8 保育者の協働 家庭的保育者等との連携（担当 傳馬） 9 保育士の専門性 知識・技術及び判断（担当 長津） 10 保育士の専門性 保育の省察（担当 長津） 11 保育者の専門職的成長 専門性の発達（担当 長津） 12 保育者の専門職的成長 生涯発達とキャリア形成（担当 長津） 13 保育職場の諸課題：保育者集団とリーダーシップ（担当 長津） 14 保育職場の諸課題：保育者集団と労働条件（担当 長津） 15 まとめ より良い保育者を目指して（担当 傳馬）				
授 業 の 留 意 点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。 今まで出会ってきた保育者の記憶や実習での経験から「保育者とは何か」との視点を常に持ちながら予習を行い、授業に参加すること。				
学 生 に 対 する 評 価	期末レポート 70 点、リアクションペーパー 30 点。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	講義時に資料を配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	岸井・無藤・柴崎監修『保育者論—共生へのまなざし—』同文書院 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院				

科 目 名	幼児教育史				
担 当 教 員 名	稲井 智義				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>この授業の目標は、受講者が幼児教育・保育の実践と思想の歴史を理解して、各自で研究・探究を進めるための方法を身につけることである。</p> <p>(1) 幼児教育史の研究動向を知り、さらに自分で調査して、文章にまとめられる。 (2) 講義や検討文献について、自分がわからない点を自分の言葉で表現できる。 (3) 幼児による探究の意義や、その探究に関わる保育者の役割について述べられる。 (4) 「自律した学習者」や「無知な市民」としての教師・保育者について対話できる。</p>				
授業の概要	<p>前半では、近現代の欧米と日本における幼児教育・保育、子ども観、家族、園・学校、福祉、文化、そしてそれらと政治、経済、社会、思想の変容との関連について講義する。あわせて受講者が乳幼児の教育と養育に関わる研究・探究を進めるための文献、学会、調査方法、データベースを紹介する。後半では以上の内容を活用して共通文献を読み、グループでの調査・報告と質疑応答、対話を手がかりにしながら、各自のこれからの問いを問い直したい。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、幼児教育における探究と「公共心」 2 戦後教育における政治と文学：『となりのトトロ』と『にゃーご』 3 「すべての子どもの学習権を保障する」学校とフル・インクルーシブ 4 「近代日本の子ども観と母性、社会改革」と岡山孤児院 5 市民としての子どもがつくる公教育：アートとインファンス（もの言わぬもの） 6 近現代北海道の幼児教育・保育と家族、地域社会 7 子ども観と家族、園・学校、福祉、文化の社会史研究：ルソーとアリエス 8 「はじめに」「第1章 幼児教育とは何か」「第2章 幼児教育の変遷」 9 「第3章 日本における幼児教育の展開」「第4章 諸外国における幼児教育の展開」「コラム①」 10 「第5章 幼児教育の施設と経営」「第6章 幼児の発達と教育」「コラム④」 11 「第7章 幼児教育の目的と内容」「第8章 幼児教育の内容の実際」「コラム②」 12 「第9章 幼児教育の計画と評価」「第10章 幼児教育の専門性と研修」 13 「第11章 子育て支援と幼児教育」「第12章 連携と交流」「コラム④」 14 「第13章 グローバル化時代の幼児教育」「第14章 幼児教育の課題と展望」 15 まとめ：無知な市民としての教師とこれからの幼児教育史・教育学研究 				
授業の留意点	遠隔授業（zoom・リアルタイム、一部はオンデマンド）で実施する。自分がわからないことをわからないと表現する勇気を持ち、子どもに関わるあらゆることを学びゼロから探究します。				
学生に対する評価	授業中に課す小レポート（50点）。グループでの調査・報告と質疑応答、対話（50点）。				
教科書（購入必須）	小玉亮子編『幼児教育』ミネルヴァ書房、2020年。（2420円） 5月に分担を決めて、各自で事前に読み、第8回目以降の授業内に検討する文献です。				
参考書（購入任意）	<p>太田素子・湯川嘉津美編『幼児教育史研究の新地平』萌文書林、2021年。（3740円） 北本正章『子ども観と教育の歴史図像学』新曜社、2021年。（7920円） 木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年。（880円） 小国喜弘・木村泰子『「みんなの学校」をつくるために』小学館、2019年。（1650円） 小玉重夫『シティズンシップの教育思想』白澤社、2003年。（1980円） 小玉亮子・木村涼子『教育／家族をジェンダーで語れば』白澤社、2005年。（1760円） 小玉亮子編『幼小接続期の家族・園・学校』東洋館出版社、2017年。（2750円） 千葉雅也『勉強の哲学（増補版）』文春文庫、2020年（初版、文藝春秋、2017年）。（770円） 佐伯胖『幼児教育へのいざない（増補改訂版）』東京大学出版会、2014年。（2420円） 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書、1999年。（924円） 福元真由美編『はじめての子ども教育原理』有斐閣、2017年。（1980円）</p>				

科 目 名	教育法概論				
担 当 教 員 名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	教育法の主要事項・論点について専門的に理解し、論じられるようになる。				
授 業 の 概 要	<p>教育法とは、憲法・教育基本法・学校教育法等をはじめとする、教育に関する法の総体をいう。この法分野は戦後、新憲法と教育基本法のもとで出発し、国の教育政策に対する抵抗運動のもとで発展を遂げた。その過程で、教科書裁判など多くの重大な事件・争点が生み出されてきた。</p> <p>この授業では教育法の主要事項と、その代表的な論点について学ぶ。</p> <p>将来教師となる人々には、法を順守して職務に臨む良識を身につけてもらう。その他の進路にすすむ人々にとっても、学校教育の諸問題について見識を深める機会となるであろう。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス、教育法とはどんな法分野か 2 教育法の歴史：新憲法と教基法、教育法学の展開 3 日本国憲法の教育規定：教育を受ける権利、義務教育など 4 教育基本法：1947年教基法の理念、2006年改正法 5 学校制度 6 教育委員会制度 7 教職員の地位 8 学校安全 9 国際教育法と日本 10 教育法の争点①：教育権論争 11 教育法の争点②：教科書検定制度 12 教育法の争点③：体罰、いじめ、不登校など 13 教育法の事例①：校則裁判 14 教育法の事例②：日の丸・君が代訴訟 15 教育法の事例③：公立学校と政教分離 				
授 業 の 留 意 点	<p>私の他の担当講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」のいずれとも関連がある。特に「子どもの権利」は併せて履修することを強く望む。</p> <p>授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。</p> <p>予習・復習としては、教科書・参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。法令や関連文書を読むことにも慣れてもらいたい。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	期末試験(100%)。加点措置として小テスト等を実施する場合もある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> ・姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法(新訂版)』(三省堂、2015) <p>そのほか追加資料を配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> ・『解説 教育六法』(三省堂、各年度版) ・日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著『子どもの権利ガイドブック【第2版】』(明石書店、2017) ・『季刊教育法』(エイデル研究所) <p>そのほか参考文献を適宜紹介する。</p>				

科 目 名	生涯学習論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。				
授 業 の 概 要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する（＝エンパワーメント）学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」（ユネスコ「学習権宣言」）である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習とは何か ー保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて 2 成人にとっての「学び」 ー自主夜間中学を例に 3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展 4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割 5 生涯学習・社会教育の法と行政 ー学びの自主性をめぐって 6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員 7 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり 8 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育 9 子育て仲間づくりにみる学習の組織化 10 誰が学習要求を組織するのか 11 学習過程とその支援（1）子育て支援と親の学び 12 学習過程とその支援（2）健康学習を例に 13 学習の構造化 ー青年・若者をめぐる社会教育実践① 14 自分さがしと居場所づくり ー青年・若者をめぐる社会教育実践② 15 若者自立支援と社会教育 ー青年・若者をめぐる社会教育実践③ 				
授 業 の 留 意 点	毎回、授業のふりかえりや小テストを行うので、期限までに提出すること。 授業形態（遠隔か対面か）は感染状況によって判断する。教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。				
学 生 対 する 評 価	期末レポート（70点）のほか、提出課題やグループワークの参加状況等（計30点）で評価を行う。				
教 科 書 （購入必須）	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参 考 書 （購入任意）	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年				

科 目 名	発達心理学				
担 当 教 員 名	及川 智博・奥村 香澄				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 発達心理学の基礎理論について理解する。 2. 講義から得た発達理論の知識に基づいて、保育における子ども理解・発達理解の重要性および子どもの評価法を理解する。				
授業の概要	発達心理学の基礎理論について、特に保育実践との関連に触れながら講義を行う。講義を進めるにあたっては、科学が仮説の上に成り立っており、異なる理論上の立場や学説があることを理解すること、また知識として学ぶばかりでなく、学び方を学ぶことが重要であることに留意する。				
授業の計画	1 オリエンテーション／保育と心理学（1） 子どもの発達を理解することの意義 2 保育と心理学（2） 保育実践の評価と心理学 3 保育と心理学（3） 発達観、子ども観と保育観 4 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（1） 感情とは何か／基本的感情とその理解 5 子どもの発達理解～感情と社会性の発達～（2） 客観的自己意識の発達と自己意識的評価感情の発達／情操の発達 6 子どもの発達理解～運動機能の発達～ 7 子どもの発達理解～認知の発達～（1） 赤ちゃんのこころの発達 8 子どもの発達理解～認知の発達～（2） 思考の発達／心の理論 9 子どもの発達理解～言語の発達～ 10 人との相互的かかわりと子どもの発達（1） 愛着の形成と発達 11 人との相互的かかわりと子どもの発達（2） 発達と学習 12 生涯発達と発達援助 13 障がい児の発達 14 保育実践事例の分析 15 まとめ 子ども、社会、環境、発達、自立				
授業の留意点	本講義は学生に学問的態度を求める。学問とは知の探求である。学問における知識の内容は、研究の深化によって変化する。従って重要なのは記憶することではなく理解する力である。理解は「どこがどのようにわからないのか」を認識することによって深まる。そのような能動的受講態度が必要である。特に授業前後においては、教科書該当範囲の予習・復習を行うほか、配布資料・ノートの整理を進めること。				
学生に対する評価	授業内レポート（10点）及び期末試験（90点）により評価する。				
教科書（購入必須）	心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』有斐閣				
参考書（購入任意）	授業内で資料を適宜配付する。				

科 目 名	子ども教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターなどにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの「教育」に寄与する心理学的知見をもとに指導する科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育・保育にかかわる心理学の理論と実践を学ぶ。 ・子どもに関する教育心理学の理論と知識を修得する。 ・子どもに関する教育心理学の理論や知識を現場に応用できる力を身につける。 ・教師としての自覚と責任を持つ。 				
授業の概要	本講義は教育心理学の理論を子どもにかかわる援助において統合的に活かすことを目指して行われる。子どもの教育は単なる経験からだけでは行えず、机上の理論だけでも役には立たない。子どもの心身の発達や学びに関する心理学的理解をしっかりと身につけ、それを教育・保育の現場での実践に活かせるようにする。子どもの発達、学習、動機づけ、記憶、知能、パーソナリティ、神経発達症群（発達障害）のなどに関する理解と援助について、多様な映像を視聴したり、実際に体験してみたりすることにより、アクティブに学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 履修上の注意事項、成績評価の方法、教育心理学実験 2 子どもの学習①：子どもの学びへの理解 3 子どもの学習②：養護及び教育の一体的展開 4 子どものモチベーション（動機づけ）：人的環境としての保育者と主体的・対話的な深い学び 5 子どもの記憶：子どもは生活や遊びから覚えていく 6 子どもの知的発達：知力への理解と知的能力発達の過程 7 子どもの認知発達：認知・学習の能力を理解・援助するための心理学的道具と資源 8 子どものパーソナリティ：子どもの気質・性格への理解と援助 9 子どもの生涯発達：発達の課題に応じた援助と関わり 10 子どもの情緒・社会性：集団における他者との経験と社会性（社会情動）の育ち 11 子どもとアフォーダンス：保育における生活空間（環境）の理解と構成 12 心理学における個人的ドキュメントの使用法：観察、記録、省察・評価、対話、情報共有 13 子どもの発達臨床：子どもの心身の課題に対する理解と援助 14 子どもの発達の障害：特別な配慮を要する子どもへの理解と援助 15 発達の連続性と就学への支援：心理アセスメントと教育支援（就学相談） 				
授業の留意点	視覚にうったえる図や写真をなど多く盛り込んだカラー印刷による資料を配布する。既に配布済みのものを遡って使用することがあるため、配布資料は遺漏なく綴り、持参していただきたい。予習は教科書により行い、復習は配布資料をもとに為されることが期待される。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」ペーパーの作成と提出である。				
教科書（購入必須）	『最新保育士養成講座』総括編纂委員会 編 2020 『最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会出版部 陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院				
参考書（購入任意）	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 2020 『心理学：第5版補訂版』 東京大学出版会 高嶋景子・砂上史子 編 2019 『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 ミネルヴァ書房 清水益治・森俊之 編集 2019 『子どもの理解と援助』 中央法規 子安増生・名和政子ほか 著 2018 『発達と学習（教職教養講座）』 共同出版 下山晴彦・遠藤利彦・齋木潤 編 2014 『誠信 心理学辞典（新版）』 誠信書房 ナイジェル・C. ベンソン 著（清水佳苗・大前泰彦 訳） 2001 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体』				

科 目 名	子どもの保健				
担 当 教 員 名	永谷 智恵・網野 真由美・塚原 高広				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解することができる。 5. 子どものこころとからだ、「虐待」から現代的問題を理解することができる。				
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と現在の健康問題について、ディスカッションを通して理解・考察していく。子どもの身体発育や生理・運動機能については、成長発達の変化から捉えられるように、また子どもの健康問題とその対応、疾病については、子どもに特異的なものを中心として写真・イラストなどを用いて解説する。				
授業の計画	1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的、健康の概念と健康指標 2 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、地域の保健活動と子ども虐待の防止 3 子どもの身体的発育・発達と保健（1）身体発育及び運動機能の発達と保健 4 子どもの身体的発育・発達と保健（2）生理機能の発達と保健 5 子どもの身体的発育・発達と保健（3）生理機能の発達と保健 6 子どもの身体的発育・発達と保健（4）生理機能の発達と保健 7 子どもの心身の健康状態とその把握（1） 8 子どもの心身の健康状態とその把握（2） 9 子どもの心身の健康状態とその把握（3） 10 子どもの疾病の予防とその対応（1） 11 子どもの疾病の予防とその対応（2） 12 子どもの疾病の予防とその対応（3） 13 子どもの疾病の予防（4） 14 子どもの疾病の予防（5） 15 子どものこころとからだ 虐待と脳への影響				
授業の留意点	子どもの健康や安全を守り、心身ともに健やかに育てること、また子どもに自分の健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育むための指針を示すものである。積極的な授業参加を期待したい。				
学生に対する評価	定期試験 100点				
教科書（購入必須）	子どもの保健 遠藤郁夫/三宅捷太 編集 学建書院				
参考書（購入任意）					

科 目 名	子どもの食と栄養				
担 当 教 員 名	高野 良子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 				
授業の概要	教科書や関連するガイドライン、教員作成の資料等を用いて基本的知識を学んだ後、演習に取り組むことで理解を深めていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康と食生活の意義 (1) 子どもの心身の健康と食生活 (講義) 2 子どもの健康と食生活の意義 (2) 子どもの食生活の現状と課題 (講義・演習) 3 栄養に関する基礎知識 (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 (講義・演習) 4 栄養に関する基礎知識 (2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本 (講義・演習) 5 子どもの発育・発達と食生活 (1) 乳児期の食生活① 乳児期の食機能の発達と成長 (講義・演習) 6 子どもの発育・発達と食生活 (2) 乳児期の食生活② 乳汁栄養、離乳の意義と食生活 (講義・演習) 7 子どもの発育・発達と食生活 (3) 幼児期の食生活① 幼児期の食機能の発達と成長 (講義・演習) 8 子どもの発育・発達と食生活 (4) 幼児期の食生活② 幼児期の栄養・食生活の実態と保育者としての対応 (講義・演習) 9 子どもの発育・発達と食生活 (5) 学童・思春期の食生活、生涯発達と食生活 (講義) 10 食育の基本と内容 (1) 保育における食育の意義・目的と基本的な考え方、食育の内容、計画及び評価、食育のための環境づくり、地域の関係機関や職員間の連携 (講義) 11 食育の基本と内容 (2) 児童福祉施設や家庭、地域での食育の実践 (演習) 12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (講義・演習) 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1) 疾病および体調不良の子ども、障がいのある子ども、食物アレルギーのある子どもへの対応 (講義) 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応の実際 (演習) 15 世界の子どもの食生活、科目のまとめ (講義) 				
授業の留意点	教科書の該当箇所を事前に予習しておくこと。				
学生に対する評価	定期試験 (50点)、小テスト (15点)、課題・提出物 (35点) により総合的に評価する。				
教科書 (購入必須)	上田玲子編著『子どもの食生活 ー栄養・食育・保育ー 第3版』ななみ書房 (2018)				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	子ども家庭支援の社会・心理学				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターなどにおいて教育相談や家族療法その他の心理臨床経験を有する教員が、子ども家庭の生涯発達・社会的状況・精神保健に関して心理学的な理解を促し、支援の方法などについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<p>(1) 生涯に互る発達に関する心理学的な知見、各期における発達課題、乳・幼児期の重要性等について理解し、保育することができる。</p> <p>(2) 家庭・家族の意義や構造-機能、親子関係や家族関係等を発達論的・システム論的に理解し、子どもと家庭を社会的・文化的・歴史的に捉え、支援することができる。</p> <p>(3) 現代の家庭生活に関わる問題の現状を知り、それらの問題と経済的・社会的背景とを関連づけて理解することができる。</p> <p>(4) 子どものメンタル・ヘルスと精神保健福祉的な課題について理解・考察し、適切に家族心理学的援助やリファーマ（ラル）することができる。</p>				
授 業 の 概 要	乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期・老年期などの各段階における子どもと養育者の発達課題や精神保健（心の健康）について学修する。また、家族の中で生まれ育ち、就労し、子どもを生き育てるといふ生活の営みが「今日なぜ大変と感じられるのか」についても幅広い視点から考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：履修上の注意事項、成績評価の方法、イントロダクション 2 生涯発達①：乳児期における社会・心理学的発達 3 生涯発達②：幼児期における社会・心理学的発達 4 生涯発達③：学童期における社会・心理学的発達 5 生涯発達④：思春期・青年期における社会・心理学的発達 6 生涯発達⑤：成人期・老年期における社会・心理学的発達 7 家族の社会・文化・歴史的理解①：ホームやファミリーの意義及び構造-機能 8 家族の社会・文化・歴史的理解②：親子関係・家族関係 9 家族の社会・文化・歴史的理解③：養育経験と母性・父性・親性の発達 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家族とその支援：特別な配慮を要する子ども家庭の理解と支援 13 発達支援が必要な子ども家庭の理解と援助 14 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題①：子どもの生活・育成環境とその影響 15 子どもの心の健康と精神保健福祉的課題②：子どもの心の健康にかかわる諸問題と家族療法 				
授 業 の 留 意 点	現代社会における人間の生涯にわたる心理学的発達とそれにかかわる家族（家庭）の機能との力動的な関係について学ぶ。また、現代の日本で家庭生活を営む中で直面する問題について、経済や産業のあり方との関係を踏まえ、社会保育学的視点から検討する。予習は教科書をもとに行い、復習は配布資料によって為されることが期待される。				
学 生 対 する 評 価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 期末試験 70 点 (2) 講義時におけるリアクションペーパー 30 点 				
教 科 書 (購入必須)	大倉得史・新川泰弘 編 2020 『子ども家庭支援の心理学入門』 ミネルヴァ書房				
参 考 書 (購入任意)	<ol style="list-style-type: none"> (1) 高橋恵子・波多野誼余夫 著 1990 『生涯発達の心理学』 岩波書店 (2) 我部山キヨ子・菅原ますみ 編 2016 『(助産学講座) 基礎助産学(4) 母子の心理・社会学 第5版』 医学書院 (3) 柏木恵子 著 2013 『おとなが育つ条件：発達心理学から考える』 岩波書店 (4) 小田切紀子・野口康彦・青木聡 編／内田伸子他 著 2017 『家族の心理』 金剛出版 (5) 団士郎 著 2013 『対人援助職のための家族理解入門：家族の構造理論を活かす』 中央法規出版 (6) 滝川一廣 著 2017 『子どものための精神医学』 医学書院 (7) 小出まみ 著 1999 『地域から生まれる支えあいの子育て：ふらっと子連れでDrop-in!』 ひとなる書房 				

科目名	保育指導論				
担当教員名	棚橋 裕子				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「ねらい」「内容」を基に、具体的な保育計画作成についての方法や作成における留意点、また、実践の系統性や計画と実践の往還性についてカリキュラムマネジメントの観点から指導を行う科目				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎理論の理解を基底に、カリキュラムの意義、目的、内容について理解し論じることができる。 ・幼児期の発達特性や行動特性に基づき、子ども理解の重要性を論じることができる。 ・保育記録の意義や内容について理解し、分析的、実践的にまとめることができる。 				
授業の概要	幼稚園教育要領の理解を基に、教育方法の基礎理論について具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方など保育技術について理解する。また、教育課程・指導計画と保育の関連性についての理解とともに、実践に根ざした指導のあり方を学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 保育とは 2 幼稚園、保育園、認定こども園における保育の内容 3 保育3法令と保育のつながり 4 教育課程、保育課程の意義と理解 5 幼児期の遊びと発達の意義 6 環境を通して行う保育の意義と保育者の役割 7 子ども理解に基づく保育のあり方～遊びの理解～ 8 子ども理解に基づいた保育のあり方～保育記録の意義と具体的な活用～ 9 子どもの遊びの多様性と経験の捉え 10 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方～子どもの興味をつなげる環境構成～ 11 子どもの育ちに即した環境の作り方、捉え方～保育記録のつながりから～ 12 保育における ICT の活用 13 子どもの育ちが見える指導計画のあり方 14 指導計画の作成と保育の展開～計画編～ 15 指導計画の作成と保育の展開～実践編～ 				
授業の留意点	<p>予習：各回の内容をシラバスにて確認し、各自で必要箇所について調べたり、質問をまとめたりしておくこと。</p> <p>復習：毎回の授業の内容をまとめ、理解が不十分な点について、資料を参考に学習の補完を行うこと。</p>				
学生に対する評価	授業内レポート（20点）期末試験（70点）授業態度（10点）により評価する。				
教科書（購入必須）	適宜資料を配布する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	保育内容総論				
担 当 教 員 名	高島 裕美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育内容の基本理念と成り立ちを学習したうえで、保育施設における教育課程ならびに指導計画編成の意義・目的について理解し、説明することができる。 ・ 保育施設の実情や乳幼児の発達に即した環境構成をベースとした、さまざまなパターンの指導計画を立案することができる。 				
授業の概要	保育・幼児教育の基本と保育内容および領域の概念について理解し、乳幼児の発達と成長を促すための教育課程ならびに指導計画の在り方について、実践的に学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 幼児教育の基本と保育内容・カリキュラム 2 保育内容・カリキュラムの歴史的変遷 3 保育カリキュラムの編成原理と子ども観 4 教育課程・保育課程の編成とカリキュラム・マネジメント 5 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容の理解 6 子どもの発達と保育内容 7 子ども理解と評価 8 養護と教育の一体性と保育内容 9 保育における計画① 指導計画の作成 10 保育における計画② 計画の展開と評価 11 幼児教育と小学校教育の連携・接続を見据えた保育内容 12 諸外国の保育内容・カリキュラム 13 これからの保育内容①多様な保育ニーズとさまざまな保育形態 14 これからの保育内容②多文化共生の保育 15 まとめ—子どもの主体性と保育内容・カリキュラムの関係性 				
授業の留意点	<p>講義形式と演習形式を適宜使い分けながら実施する。特に後半では、ペアまたはグループでの指導計画の作成作業に取り組むので、積極的な態度での参加を期待する。</p> <p>予習として、新聞記事やニュースなどを利用して普段から情報収集し、復習として、授業で扱ったキーワードやトピックについて、自分で文献等を調べることで、課題意識を高めておいてほしい。これらの活動は、普段の講義やそのなかでのペアワーク・グループ活動、さらに期末提出課題の準備学習として位置付く。</p>				
学生に対する評価	期末提出課題（50点）、中間提出課題（25点×2）により評価する。				
教科書（購入必須）	岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正『教育課程・保育の計画と評価 —書いて学べる指導計画—』萌文書林、2018年				
参考書（購入任意）					

科 目 名	保育内容・言葉				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「言葉」について理解する。 ・乳幼児期の言語発達を理解する。 ・子どもの言葉の育ちを支える指導法および保育者の役割を理解する。 				
授 業 の 概 要	保育内容「言葉」についての幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるねらいと内容を確認するとともに、子どもの言葉の発達についての基本的知識を獲得する。それを基盤に、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 3 子どもの言葉の発達① 乳児期 4 子どもの言葉の発達② 幼児期 5 子どもの言葉の発達③ 幼児期の言葉から児童期の言葉へ 6 子どもの言葉の発達④ 自分の考えや思いを伝える言葉 7 遊びと言葉① 言葉の音を楽しむ 8 遊びと言葉② 虚構遊びにおける言葉 9 遊びと言葉③ 文字との出会い 10 子どもの言葉を育む保育の実際① 言葉遊び・わらべうた 11 子どもの言葉を育む保育の実際② 絵本・紙芝居 12 子どもの言葉を育む保育の実際③ ストーリーテリング 13 模擬保育① 指導案作成 14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育と振り返り 15 幼児教育の現代的課題と領域「言葉」—小学校とのつながりを中心に 				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業に参加して欲しい。				
学 生 対 する 評 価	提出課題（40点）および期末レポート（60点）により評価する。				
教 科 書 (購入必須)	適宜プリント等を配布する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	保育内容・人間関係 I				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターにおいて「遊び方教室」の開催などの実務経験を有する教員が、子どもの社会性や対人技能の発達を支援する方法などについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自立心を育て、子どもの対人関係力を涵養できる保育者をめざす。 ・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ・幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・教育実践における保育内容「人間関係」の支援法（指導法）について修得する。 				
授 業 の 概 要	子どもが人と親しみ、支えあって生活するための領域「人間関係」について、幼児期の人間関係の発達の特徴を学ぶ。子どもが自立心を持ち、人とかかわる力を涵養するために保育者が幼児期の教育において構成すべき保育内容の支援法（指導法）を種々の演習により実践的に理解する。具体的にはテキスト、映像、スライド、ホワイト・ボード、紐、紙、テープ、情報機器などのツールも活用して、模擬保育、集団遊び、集団ゲーム、ロールプレイ、即興劇（サイコドラマ）、集団討論、グループワークなどの方法も取り入れながら、演習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 領域「人間関係」の内容とねらい（なんでもバスケット、自己開示） 2 幼児期の人間関係の発達（1）子どもと養育者とのアタッチメントや信頼関係の発達（寄り道散歩①） 3 幼児期の人間関係の発達（2）子どもどうしの仲間関係における情緒・社会性の発達（花一匁、王様・大臣・門番、じゃんけん） 4 幼児期の人間関係の発達（3）子どもの人間関係をめぐる現代的課題（心理ゲーム①） 5 学童期以降の人間関係の発達（心理ゲーム②） 6 子どもと保育者とのアタッチメントや信頼関係の形成（手遊び歌①） 7 子どもの社会的自我の発達と社会情動の自己コントロール（人間関係の絵本） 8 子ども集団のなかでのトラブルへの介入・支援（即興劇） 9 遊びにおける人間関係（1）遊びをとおして対人関係性の発達を促す支援（遊び方教室①） 10 遊びにおける人間関係（2）周辺環境のアフォーダンスを活用した遊び（寄り道散歩②） 11 遊びにおける人間関係（3）ICT（情報通信技術）を活用した遊び（手作りゲーム） 12 遊びにおける人間関係（4）脳（前頭葉）の発達を促す社会情動的スキル遊び（手遊び歌②） 13 幼児期の人間関係におけるつまずき（1）神経発達症（気になる子）への支援（遊び方教室②） 14 幼児期の人間関係におけるつまずき（2）家庭との連携、専門職連携（遊び方教室③） 15 子どもたちの社会的環境と領域「人間関係」（人間関係を語る） 				
授 業 の 留 意 点	動きやすい服装での出席を指示することがある。 表現演習室での実践的な演習が基本となるが、ときに音楽室・児童文化演習室・屋外（大学周辺）などで行うこともある。 予習はシラバスに沿ってインターネットの検索エンジンを活用して行い、復習は配布され資料をもとに為されることが期待される。 グループに分かれての討論や実技には積極的に参加していただきたい。				
学 生 対 する 評 価	中間レポート（20点）・試験（60点）・提出物（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」にかかわるリアクション・ペーパーの作成・提出である。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	陳省仁・古塚孝・中島常安 編 『子育ての発達心理学』 同文書院 2003年 幼少年教育研究所 編 『遊びの指導：乳・幼児編』 同文書院 2009年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	森口佑介 著 『自分をコントロールする力：非認知スキルの心理学』 講談社 2019年 森口佑介 著 『子どもの発達格差：将来を左右する要因は何か』 PHP研究所 2021年 文部科学省 著 『平成29年告示・幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』 チャイルド本社 2017年 無藤隆・古賀松香 編 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつながる非認知的能力とは』 北大路書房 2016年 無藤隆 監修・指導 『スキルあそび45：人とかかわり方を育てる』 日本標準 2010年				

科 目 名	保育内容・人間関係Ⅱ				
担 当 教 員 名	及川 智博				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	乳幼児が他者とのかかわり合い（相互作用）を通じて発達するプロセスについての理解を深めます。その上で、子どもたちの人間関係の形成に対して、保育者をはじめとする大人が果たす役割について、自ら考察できるようになることを目指します。				
授 業 の 概 要	乳幼児期の発達理論や対人理解のあり方に関する整理を基礎としつつ、子どもの人間関係の発達と援助のあり方を具体的に把握します。映像資料や文章事例の考察、そして受講生自らが問いを立て学生同士で意見を交わす「事例検討会」の開催を通じて、理論と実践の両面から、子どもの人間関係を育む保育者のあり方について理解を深めます。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション —子どもの人間関係における大人— 2 人間関係の発達（1）—0～1歳児における他者の見え方・理解の仕方— 3 人間関係の発達（2）—2歳児における他者の見え方・理解の仕方— 4 人間関係の発達（3）—3歳児における他者の見え方・理解の仕方— 5 人間関係の発達（4）—4歳児における他者の見え方・理解の仕方— 6 人間関係の発達（5）—5歳児における他者の見え方・理解の仕方— 7 演習へ向けた準備（1） —「事例検討会」の内容と目的— 8 演習へ向けた準備（2） —グループによる提案事例の精選— 9 演習Ⅰ —受講生提案による事例検討会 1日目— 10 演習Ⅱ —受講生提案による事例検討会 2日目— 11 演習Ⅰ・Ⅱの振り返り 12 演習Ⅲ —受講生提案による事例検討会 3日目— 13 演習Ⅳ —受講生提案による事例検討会 4日目— 14 演習Ⅲ・Ⅳの振り返り 15 講義のまとめ —乳幼児期の人間関係をめぐる援助を再考する— 				
授 業 の 留 意 点	演習科目のため、グループでのディスカッションや演習を実施します。授業参加や演習のためには、予習が必要となることがあります。積極的な参加を期待します。				
学 生 対 する 評 価	講義時のリアクションペーパー（20点）、授業態度および演習の様子（30点）、最終レポート（50点）の結果をもとに総合的に評価します。				
教 科 書 （購入必須）	指定しない				
参 考 書 （購入任意）	指定しない（授業の進行やリアクションペーパーの内容に応じて適宜紹介します）				

科 目 名	保育内容・環境 I				
担 当 教 員 名	菊池 稔				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の子どもと環境とのかかわりについて学び、保育実践における保育内容「環境」の指導法を理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>子どもは、人や社会、自然など、さまざまな環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容「環境」に関する基礎的な知識を理解する。また、周囲の環境に対する子どもの好奇心・探究心を高め、子どもがそれらに積極的に関わっていくための保育方法について学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、保育内容・環境の全体構造 2 領域「環境」のねらいと内容、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿 3 子どもを取り巻く4つの環境(人的環境、自然環境、社会環境、物的環境) 4 子どもと環境(1) 自然環境とのかかわり 5 子どもと環境(2) 生きものとのかかわり 6 子どもと環境(3) 生活の中での文字・数・図形とのかかわり 7 子どもと環境(4) 地域・行事とのかかわり 8 子どもと環境(5) 自然物を活かした保育と遊び 9 子どもと環境(6) 身近なモノ(おもちゃ遊具を含む) とのかかわり 10 子どもと環境(7) 生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法 11 友だちや保護者の役割 12 子どもの好奇心と探求心を高める環境構成 13 模擬保育(1) 保育内容「環境」に関する指導案作成と評価方法 14 模擬保育(2) 指導案に基づく模擬保育と振り返り 15 まとめー保育内容「環境」をめぐる保育者の役割と小学校との連携 				
授 業 の 留 意 点	<p>授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な議論を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>授業の取り組み方・意欲 20点、制作物 20点、発表 20点、期末レポート 40点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>文部科学省「幼稚園教育要領」解説 厚生労働省「保育所保育指針」解説</p>				
参 考 書 (購入任意)	<p>必要に応じて適宜指示する。</p>				

科 目 名	保育内容・環境Ⅱ				
担 当 教 員 名	菊池 稔				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	・「保育内容・環境Ⅰ」の指導法を実践的に学び、保育実践の在り方を考察する。				
授 業 の 概 要	「保育内容・環境Ⅰ」で学習したことを踏まえ、指導法について実践的に学ぶ。自然や社会など身近な環境に子どもがいかにかかわっていくか、積極的にかかわっていくにはどんな力が必要なのか、保育者も含めた人的環境の大きさについて考えると共にその指導法を実践的に学ぶ。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 領域のねらい及び内容の理解、全体構造の理解他 2 自然環境（１）身近な自然を観察する 3 自然環境（２）自然のなかでの遊び 4 植物（１）植物を観察する 5 植物（２）植物栽培と保育実践 6 動物（１）身近な生き物を探す 7 動物（２）動物飼育と保育実践 8 植物（３）野菜作りと食育実践 9 保育のICT化と個人情報保護、情報機器の操作方法 10 子どもの自然体験と保育実践①森のようちえん 11 子どもの自然体験と保育実践②森のムッレ教室など 12 地域を活かした保育案を考えよう 13 保育案発表① 14 保育案発表② 15 まとめ 幼稚園教育の評価・小学校の教科等へのつながり 				
授 業 の 留 意 点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な論議を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学 生 対 する 評 価	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、期末レポート 40 点				
教 科 書 (購入必須)	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』				
参 考 書 (購入任意)	必要に応じて適宜指示する。				

科 目 名	保育内容・健康 I				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらいと内容を理解し、その指導法を修得する。 ・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解することができる。 ・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。 				
授 業 の 概 要	<p>領域「健康」の内容を実践動向などから理解し、自ら計画し実践する。また、子どもの発達を支える援助や指導の在り方について具体的な事例を紹介し、その実践的意味について理解する。「健康」に関わる保護者支援の場面などを想定し、保育者として必要な実践的知識と技術を身につける。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンス 園の現状や諸課題について 2 保育内容「健康」について 幼稚園教育要領・保育所保育指針が目指すもの 3 子どもの心身の発育と発達 形態の発育、生理機能の発達などを学ぶ 4 生活習慣の獲得と保育者の関わり 基本的な生活習慣や安全に関する指導・援助を学ぶ 5 園生活のリズムと子どものリズム 家庭との連携を視野に（子育て支援の実際） 6 子どもの心身の健康を保障する環境構成について 7 子どもの心身の健康 園生活全体と長期的展望から捉える 8 「健康」の具体的内容と保育指導案 情報機器の活用法と教材研究の基本的な考え方 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開1）運動機能の発達、心の発達などを学ぶ 10 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開2）遊具・器具を使った運動遊びを学ぶ 11 健康と食育 健康の指導、食育の指導における取り組みと指導案について考える 12 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開3）鬼ごっこなどの指導の実際を学ぶ 13 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開4）競い合う遊びの指導の実際を学ぶ 14 模擬授業3（運動遊び・体育遊びの展開5）外遊びの実際と心身の発達との関係 15 まとめと振り返り 				
授 業 の 留 意 点	<p>参考文献・資料に目を通し、紹介した文献等について授業の事前事後に参照しておくこと。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>提出物100点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館</p>				
参 考 書 (購入任意)	<p>授業の中で適宜紹介する。</p>				

科 目 名	保育内容・健康Ⅱ				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	「保育内容・健康Ⅰ」での学修をふまえ、以下の点を深める ・領域「健康」の観点から子どもの発達を保障する実践的課題と方法について説明することができる。 ・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について問題点を把握することができる。 ・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための教師の具体的援助や指導について理解する。 ・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について説明することができる。				
授 業 の 概 要	領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的実践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。				
授 業 の 計 画	1 授業のガイダンス 2 子どもの健康 運動・食事・睡眠 3 子どもの心身の発育と発達 欲求と運動 4 保育内容としての「健康」 幼稚園教育要領、保育所保育指針より環境構成、保育者の役割について学ぶ 5 運動遊びの系統的指導からみた年間計画等の指導計画を考える 6 生活習慣の獲得と保育者のかかわり 基本的な生活習慣・安全についての指導・援助を学ぶ 7 基本的な生活習慣、運動遊び、安全生活に関わる指導計画について調べて発表する 8 子育て支援・児童虐待について 保護者との関係性の構築と共同の在り方を実践例から学ぶ 9 教材研究1（運動遊び・体育遊びの展開その1）運動機能の発達・心の発達と教材の選び方 10 模擬授業1（運動遊び・体育遊びの展開その2）鬼ごっこあそびなどの指導案の実践 11 教材研究2（運動遊び・体育遊びの展開その3）運動あそびの系統的指導の研究方法を遊具・器具を対象にして学ぶ 12 模擬授業2（運動遊び・体育遊びの展開その4）競い合う遊びの指導案の実践 13 健康と食育について 食育の指導における取り組みについて調べ指導計画を立てる 14 食育の取り組みから学んだことを実践する 15 まとめと振り返り				
授 業 の 留 意 点	テキスト『発達の扉<上>』について、授業で取り上げる範囲を予習しておくこと。				
学 生 対 する 評 価	意欲・態度20点、提出物80点				
教 科 書 (購 入 必 須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館 白石正久『発達の扉<上>』かもがわ出版、1994年				
参 考 書 (購 入 任 意)	授業の中で適宜紹介する。				

科 目 名	保育内容・表現 I				
担 当 教 員 名	三国 和子・堀川 真・石本 啓一郎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらいと内容を理解し、表現についての一般的概念や子どもの表現の発達に関する知識を学び指導法を身につける。				
授 業 の 概 要	領域「表現」に関わる基礎的な学習の後、環境構成や教材の提示及び情報機器の活用情報機器の表現の受容など多方面から指導法について学ぶ。実技やグループワーク、模擬保育等も行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (担当：三国) 2 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の理解 (担当：石本) 3 子どもの表現の発達① 音楽 (担当：三国) 4 子どもの表現の発達② 造形 (担当：堀川) 5 素材との出会い① 自然との関わり (担当：石本) 6 素材との出会い② 環境の構成・情報機器の活用 (担当：堀川) 7 美的感動の喚起 ー保育者の役割 (担当：堀川) 8 感動の伝えあいと共有 (担当：石本) 9 表現の方法① 言葉 (担当：石本) 10 表現の方法② 絵 (担当：石本) 11 表現の方法③ 工作 (担当：堀川) 12 表現の方法④ 楽器あそび (担当：三国) 13 模擬保育① 指導案作成 (担当：三国) 14 模擬保育② 実習 (担当：三国、堀川、石本) 15 まとめ (担当：三国、堀川、石本) 				
授 業 の 留 意 点	各分野のつながりを意識しながら受講すること。				
学 生 対 する 評 価	授業態度 (30点)、課題提出 (30点)、最終レポート (40点) により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	文部科学省『幼稚園教育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参 考 書 (購 入 任 意)	厚生労働省『保育所保育指針』、その他必要な際に提示する。				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（音楽）				
担 当 教 員 名	三国 和子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における音楽活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	保育内容の領域「表現」のうち音楽分野を扱う。保育の現場で行われる音楽活動やそれを通して養われる子どもの音楽的感性や表現に関する事項について、実技やグループワークを交えながら学ぶ。また、それを踏まえ、表現領域での音楽活動についての支援のあり方について深めていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 保育における音楽の位置づけ 2 子どもの音楽表現とその発達① レクチャー 3 音楽活動のねらい 4 音楽活動の教材研究① レクチャー 5 音楽活動の教材研究② メソッドとアプローチ 6 音楽活動の教材研究③ 音楽遊びの実践 7 音楽活動の教材研究④ 演習 8 子どもの音楽表現とその発達②（グループワーク）考察 9 子どもの音楽表現とその発達③（全体）報告とまとめ 10 音楽活動の指導 11 音楽活動の実践① レクチャー 12 音楽活動の実践② 指導案作成 13 音楽活動の指導③ 模擬保育 14 音楽活動の指導④ 模擬保育 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	場合によっては動きやすい服装が必要となることがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート課題（50点）、授業における課題提出（50点）によって評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館 保育音楽研究プロジェクト編『青井みかんと一緒に考える幼児の音楽表現』大学図書出版				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、造形活動の実際を体験し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> 前半の「多様な素材」は、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した活動ができるよう制作に取り組む。 後半の「絵本づくり」は、着想から製本までの総合的な制作を通して、こどもの発達に対応した絵本づくりや絵本理解を身につける。絵本の内容については個別に対応し、個々の発想を重視した活動とする。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 風とあそぶ 2 多様な素材 (1) 厚紙：ハンペルマン 3 多様な素材 (2) 箱：カメラ 4 多様な素材 (3) 土：石膏型取り 5 多様な素材 (4) 水：染めあそび 6 多様な素材 (5) 古紙：新聞紙であそぶ 7 多様な素材 (6) 廃材：街をつくる 8 様々な造形パフォーマンス 9 絵本づくり (1) 構想 10 絵本づくり (2) 下絵～彩色 11 絵本づくり (3) 彩色～仕上げ 12 絵本づくり (4) 製本の技法 13 絵本づくり (5) 糊付け 14 絵本づくり (6) 製本 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学 生 対 する 評 価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし				

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（言語）				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえ、領域「表現」における言語に関わる活動の内容及び指導についてより高度な知識・技能を身につける。				
授 業 の 概 要	まず、子どもの想像力の発達についての知識を学ぶ。それに基づいて、子どもの言語表現を育てる教材や指導法を学ぶ。全体を通じて、言語表現が豊かに育つときの保育者の役割について理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 子どもの想像力の発達① 現実と想像の世界 3 子どもの想像力の発達① 絵画表現 4 虚構遊びにおける表現① 言葉の役割とは 5 虚構遊びにおける表現② 物を使って言葉を導く 6 虚構遊びにおける表現③ 身振りと言葉 7 表現を育てる資源① 映像 8 表現を育てる資源② 資源 9 表現を育てる資源③ 詩的表現 10 自然観察における表現① 経験の言語化 11 自然観察における表現② 科学の言葉と想像 12 自然観察における表現③ 虚構遊びと自然探索の言語表現 13 模擬保育① 指導案作成 14 模擬保育② 指導案に基づく模擬保育と振り返り 15 まとめー乳幼児の言語表現と小学校の連携 				
授 業 の 留 意 点	さまざまなワークショップやディスカッションをおこなう。積極的に授業に参加して欲しい				
学 生 対 する 評 価	課題提出（40点）、期末レポート（60点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）	必要に応じて資料を配付する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	乳児保育 I				
担 当 教 員 名	及川 智博				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	保 育 士 : 必 修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児保育の意義・目的・役割と、その歴史の変遷について理論的にとらえ理解する。 ・ 3 歳未満児における発達と、それを踏まえた保育内容や運営体制について理解する。 ・ 多様な乳児保育のあり方に関する現状と課題を知り、家庭や地域、また職員間の連携について理論的にとらえ理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>乳児保育の基本理念・歴史の変遷・現代的課題について学び、現代社会において乳児保育が果たす役割について考察します。そのために、乳児期の子どもの発達プロセスや、その発達を支える周囲の社会・世界のあり方を総合的に把握した上で、保育者に求められる基本的な役割と留意点を学びます。授業は、映像資料や保育記録の考察・ディスカッション、またグループでの作業も取り入れながら進めていきます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション –乳児保育の役割と機能– 2 乳児の発達と保育（1） –未満児の発達の基本的特徴– 3 乳児の発達と保育（2） –未満児から以上児への移行– 4 乳児保育の内容・方法・生活（1） –大人・モノと遊ぶ– 5 乳児保育の内容・方法・生活（2） –友だちと共に・全身をつかって遊ぶ– 6 乳児保育の内容・方法・生活（3） –遊びと環境・文化・保育士の役割– 7 乳児保育における親の発達と支援 8 乳児保育における保育士のあり方 9 乳児保育における記録と計画 10 保育所内・外における乳児保育 11 乳児保育の歴史・意義・役割（1） –第二次世界大戦以後– 12 乳児保育の歴史・意義・役割（2） –高度経済成長期– 13 乳児保育の歴史・意義・役割（3） –昭和から平成へ– 14 乳児保育をめぐる現状と課題 15 講義のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>適宜、グループでの作業（ディスカッションや簡単な作業など）も取り入れますので、各自が責任を持って積極的に取り組んでください。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>毎回の講義のリアクションペーパー（20点）、最終試験（80点）をもとに総合的に評価します。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>乳児保育研究会（編）『資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>心理科学研究会（編）『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』有斐閣 （その他、授業の進行やリアクションペーパーの内容に応じて適宜紹介します）</p>				

科目名	乳児保育Ⅱ				
担当教員名	及川 智博				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児における子どもの発達の特徴をふまえた保育者のあり方について理解する。 ・3歳未満児にふさわしい生活、遊び、環境構成、援助および配慮について具体的かつ実践的に理解する。 ・乳児保育における計画の意義と具体的展開について理解する。 				
授業の概要	乳児保育Ⅰおよび保育実習Ⅰでの学修を受けて、3歳未満児の発達を踏まえた保育の基本を振り返りつつ、具体的な子どもの生活や遊びの様子、環境構成のあり方、そしてそれを支えるための保育者の援助と計画のあり方を学びます。授業のなかでは、映像資料や保育記録の考察・ディスカッション、また現場の保育者をゲストスピーカーとした講演・演習などを通して、理論と実践の両面から理解を深めていきます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションー乳児保育Ⅰと保育実習Ⅰを受けてー 2 乳児保育の基本を再考する（1）ー乳児保育における未満児と保育者の関係性ー 3 乳児保育の基本を再考する（2）ー子どもの主体性と応答的かわりー 4 乳児保育の基本を再考する（3）ー集団生活の意義と配慮ー 5 乳児保育の基本を再考する（4）ー遊びと環境ー 6 乳児保育における援助（1）ー乳児保育における1日ー 7 乳児保育における援助（2）ー健康・安全・事故ー 8 乳児保育における援助（3）ー食事ー 9 乳児保育における援助（4）ー排泄と清潔ー 10 乳児保育における援助（5）ー睡眠ー 11 特別な配慮を要する子どもー病気・障害・虐待・ルーツー 12 乳児保育における計画（1）ー子どもの姿・活動の記録ー 13 乳児保育における計画（2）ー体的な計画から指導計画へー 14 乳児保育における計画（3）ー指導計画を作成するときのたいせつなことはー 15 まとめと振り返り 				
授業の留意点	演習（グループでの作業やディスカッション）を積極的に取り入れながら授業を進めます。各自が責任を持って、積極的に取り組んでください。				
学生に対する評価	講義時のリアクションペーパー（20点）、授業態度および演習の様子（30点）、最終レポート（50点）の結果をもとに総合的に評価します。				
教科書（購入必須）	指定しない				
参考書（購入任意）	乳児保育研究会（編）『資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房 （その他、授業の進行に応じて適宜配付します）				

科 目 名	就学児保育 A (思春期の支援)				
担 当 教 員 名	佐々木 彰・鈴木 勲				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所等での実務経験をもとに、思春期の子どもたちが抱える課題への支援について教授する。				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における就学児保育の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 就学児保育と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 就学児保育の制度や実施体系等について理解する。 4. 就学児保育における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 就学児保育の現状と課題について理解する。 6. 就学期の子どもたちの心の問題をよく理解した上での支援が行える。 				
授 業 の 概 要	思春期は、心身ともに大きな成長を遂げる時期であるが、それ故にまた、それまでの心と育ちの課題がいじめや、非行、不登校などのいわゆる「問題行動」として現れやすい時期でもある。それら「問題行動」への対応は、その後の子どもの成長に大きな影響を与える。この授業では、この時期の子どもたちをどのように理解し、支援していくかを学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 就学児を取り巻く状況 2 神経発達症(発達障害) (担当佐々木彰) 3 愛着障害 (担当佐々木彰) 4 ストレス因関連障害(適応障害、PTSD 等) (担当佐々木彰) 5 心身症、身体症状症(身体表現性障害) (担当佐々木彰) 6 反抗挑発症、素行症、窃盗症 (担当佐々木彰) 7 うつ、情緒障害、不安症 (担当佐々木彰) 8 嗜癖性障害(インターネットゲーム障害、電子メディア依存症等) (担当佐々木彰) 9 摂食障害、緘黙、チック症/トゥレット症など (担当佐々木彰) 10 虐待を受ける子どもたち 11 児童養護施設等の子どもたち 12 非行少年 13 ひきこもり・不登校児童 14 情緒障害児 15 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー 				
授 業 の 留 意 点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。				
学 生 対 する 評 価	提出物 80 点、講義における取組 20 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜資料等を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	社会福祉小六法 2022 令和 4 年版 / ミネルヴァ書房編集部 (ISBN9784623093090) 小六法は、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考図書については、適宜授業の中で紹介する。				

科 目 名	就学児保育B（学童保育）				
担 当 教 員 名	河野 和枝				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童相談所及び児童養護施設等で臨床経験を持つ教員が、思春期の子どもたちが抱える様々な課題への支援を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の理念・歴史・制度について理解する。 ・学童保育に通う子どもの生活と発達について理解する。 ・学童保育指導員の業務内容と専門性について理解する。 				
授 業 の 概 要	学童保育とは、児童福祉法では、「放課後児童健全育成事業」といい、保護者が就労等で家庭にいない小学生を対象に、放課後や学校の休業日の生活を豊かにすることを目的とした事業の総体を指す。近年、学童保育のニーズは、高まっているが、保育内容や専門職の養成など多くの課題がある。本講義では、学童保育の成り立ちや目的、関連法について学ぶとともに、学童保育における生活づくりの進め方や指導員の職務について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 学童保育の目的と役割 2 保育に活かす関係法案・施策の歴史の変遷 3 学童保育の役割と家族支援の関係 4 学童期の子どもの生活と発達 5 学童保育に通う子どもの理解 6 子どもの健康・安全・衛生 7 学童保育での 1 日の生活 8 障がいのある子どもを含めた生活づくり 9 保護者との連携・地域との連携 10 学校・関係機関との連携 11 学童保育での食事 12 安全対策・緊急時対応 13 職員集団と子どもへの対応 14 保護者相談と支援 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	各テーマについてグループディスカッションと発表を行う場合がある。				
学 生 に 対 す る 評 価	課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （購入必須）	資料を都度配布する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	病児・病後児保育				
担 当 教 員 名	小児看護学担当教員、他				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>①病気の子ども、病気の回復期の子どもの保育に保育士として求められる基本的な観察や対応方法を修得する。</p> <p>②家族への支援、多職種（医師、看護師など）との連携の在り方について学ぶ。</p>				
授 業 の 概 要	<p>病児・病後児保育の現状と課題および代表的な子どもの疾病について学習したうえで、症状を観察しながらの保育について考える。また、国内外における様々な取り組みから闘病生活を送る子どもや家族への支援の実際について学ぶ。事例による演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる保育士としての専門性や実践力の獲得を目指す。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 病児・病後児保育とは 2 病児の理解 3 病児の理解 4 病児・病後児保育室の一日 5 病児・病後児保育室の環境 6 病児・病後児保育における子どものケア 7 病児・病後児保育における子どものケア 8 病児・病後児保育における子どものケア 9 病児・病後児保育における子どものケア 10 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 11 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 12 ケーススタディ① 13 ケーススタディ② 14 ケーススタディ③ 15 病児・病後児保育のリスクマネジメント 				
授 業 の 留 意 点	<p>保育の専門職者として、病気の子どもの生命を守り成長発達を促す保育とは何か、保育が担う責任を考えながら授業に参加してほしい。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>毎回課題を提出、その内容により評価 100点 欠席しても後日課題は提出してください。</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>資料を配付する。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	子どもの健康と安全				
担 当 教 員 名	小児看護学担当教員、他				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習・講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児をこころよくできる養護について理解して実施できる。 2. 乳幼児の身体計測、体温・呼吸・脈拍の測定方法がわかり実施できる。 3. 乳幼児の緊急時の応急手当てについて理解して実施できる。 4. 安全な保育環境について理解することができる。 				
授 業 の 概 要	乳幼児の日常生活の養護、発育・健康状態の観察と評価、病気やケガなどに緊急時の対応について、演習と講義を通して学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業概要と演習についてのオリエンテーション 2 保育環境の整備と保育現場における衛生管理 3 保育環境の整備と保育現場における衛生管理 4 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 5 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 6 日常における養護 7 日常における養護 8 日常における養護 9 保育の場での薬の投与 10 体調不良が発生した場合の対応 11 個別的な配慮を必要とする子どもへの配慮 12 傷害が発生した場合の対応 13 傷害が発生した場合の対応 14 いざというときの応急処置 15 いざというときの応急処置 				
授 業 の 留 意 点	講義で演習内容を説明しながら進行しますが、事前に教科書で手順を確認し積極的に実施できるように準備することが必要です。毎回授業時間内で演習課題の提出があります。				
学 生 対 する 評 価	毎回の演習課題の提出と記載内容 100点 欠席した場合も後日演習課題の提出は必要です。				
教 科 書 (購入必須)	松本峰雄 監修 子どもの保健と安全 演習ブック ミネルヴァ書房				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	社会的養護Ⅱ				
担 当 教 員 名	小山 貴博				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	社会的養護の実際について理解を深め、子ども達や保護者の置かれた状況について、多方面から考える。そのうえで、望ましい支援について教員と学生が一体となって考察を加える。				
学習到達目標	児童福祉領域における社会的養護の体系や実情について学ぶ。とりわけ、児童福祉施設における支援や処遇の歴史、現状、将来展望などについて探求すると共に、自らがよき支援者となることを目標として、実践的に学習する。				
授業の概要	児童養護施設を中心に、他の児童福祉施設や里親制度など、社会的養護の法制度、支援のシステム、生活している子どもたちの実情などを学び、自立支援のあり方などについて考える。児童問題全体にわたり取り上げたいが、特に被虐待児童の理解と支援について重点をおいてすすめたい。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（講義の概要と進め方） 2 社会的養護の体系Ⅰ～社会的養護の歴史と現状 3 社会的養護の体系Ⅱ～社会的養護の法制度、支援のシステム 4 施設養護の実際Ⅰ～児童養護系の施設（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）の現状 5 施設養護の実際Ⅱ～児童養護施設の生活形態と支援の実際 6 施設養護の実際Ⅲ～児童養護施設における支援のあり方と児童の権利擁護 7 家庭的養護の実際～里親制度と養子縁組制度 8 施設養護の実際Ⅳ～施設養護と家庭的養護の比較 9 施設養護の実際Ⅴ～児童自立支援施設、自立援助ホームにおける支援 10 施設養護の実際Ⅵ～障害のある子どもの施設①（知的障害児施設、情緒障害児短期治療施設） 11 施設養護の実際Ⅶ～障害のある子どもの施設②（肢体不自由児施設・重症心身障害児施設） 12 ケース記録・生活記録の意義と記録法 13 自立支援計画の策定の意義と方法 14 児童福祉施設の職員になるために～実習や就職活動の心構えと職員に求められるもの 15 まとめ 				
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護関連のニュースや動向などに興味・関心を持って授業に臨むことを求めます。 (2) 講義中に関係無い私語は、他学生の講義を受ける権利を侵害するため、厳禁とする。 				
学生に対する評価	筆記試験（100%）※3分の2以上の出席が大前提である。				
教科書（購入必須）	適宜資料を配布する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	子育て支援				
担 当 教 員 名	鈴木 勲				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所等での実務経験をもとに、子育て支援の基礎、応用について教授する。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 				
授業の概要	子育て支援の概要、体系及び方法と技術、関係機関との連携や協働について基本的な知識を理解したうえで、子育て支援の具体的展開事例、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。子育て支援の個々の課題についても、理論と実際の双方から具体的に考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの保育とともにを行う保護者の支援 2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4 子ども及び保護者の状況・状態の把握 5 支援の計画と環境の構成 6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 7 職員間の連携・協働 8 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9 保育所等における支援 10 地域の子育て家庭に対する支援 11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 13 子ども虐待の予防と対応 14 要保護児童等の家庭に対する支援 15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 				
授業の留意点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。				
学生に対する評価	学期末試験 100 点 定期試験では全体的な基礎知識を問う。子育て支援に関する今日的な課題について、問題意識を持って受講するようにして下さい。				
教科書（購入必須）	適宜資料等を配布する。				
参考書（購入任意）	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社（ISBN9784805401224） 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。				

科 目 名	子ども理解と教育相談				
担 当 教 員 名	糸田 尚史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターにおいて心理検査や家族療法などの心理臨床の実務経験を有する教員が、子どもの発達及び発達の障害に関して心理学的な見地からの理解を促し、相談援助の技術などについて指導する科目				
学習到達目標	<p>テーマ：子どもの心や行動への理解と教育相談にかかわる心理学的理論及び実践方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の子ども理解にかかわる基礎的理論と幼児期の子どもの教育との関連を理解する。 ・ カウンセリングの基礎理論を理解し、カウンセリングに必要な諸技能を修得する。 ・ 教育相談の意義を理解し、教育支援の諸技法を実践できる。 ・ 幼児期の子どもの発達と家庭や社会における現代的な諸問題について学び、それに対する実際的な支援方法（心理的支援やソーシャルワーク的支援）を状況即応的に応用できる。 				
授業の概要	心理学領域で発展してきた子ども理解のための基礎理論と方法、保健医療福祉分野で実践されてきた相談（ソーシャルワーク）やカウンセリングの基礎理論と方法を学び、教師が行う子ども理解と教育相談での活用について修得する。近年、注目されている神経発達症（発達障害）への理解とその教育相談も取り扱う。DSM-5やICD-11により名称や概念が変化しつつある発達症や情緒・社会性の発達にかかわる教育相談、支援の実際、教育支援（就学相談）、関係機関との連携等について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの発達理解と教育相談の意義：定型発達（認知発達・人格発達）、発達の遅れと偏り、神経発達症群（発達障害）、心身の障害、非社会的行動、反社会的行動 2 子ども理解の理論①：愛着（アタッチメント）理論、認知発達理論、社会的認知理論、正統的周辺参加理論 学び合う共同体 3 子ども理解の理論②：幼児期の教育理論、社会・文化的アプローチ、社会構成主義的アプローチ、臨床発達心理学理論 4 子ども理解の理論③：フロイト理論（第一の勢力）と精神分析、スキナー理論（第二の勢力）と応用行動分析、ロジャース理論（第三の勢力）とカウンセリング 5 子ども理解の方法：行動観察法、面接法、社会診断、心理アセスメント法（新版K式発達検査2020、WPPSI-III、WISC-IV、KABC-II、DN-CAS、改訂版ITPA、各種投影法検査） 6 子ども・保護者への心理・教育的支援：カウンセリングマインドによるカウンセリング、遊戯治療、ナラティブ・セラピー、家族療法、長所活用型指導 2E/二重の特別支援教育 7 子どもの心理臨床①：現代における子どもの多様な臨床症状、神経発達症群（発達障害・気になる子）、心身の障害の理解と教育相談 8 子どもの心理臨床②：言語発達遅滞、コミュニケーション症、知的発達症（知的能力障害）等の教育相談 9 子どもの心理臨床③ 自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）、運動症（MD）等の教育相談 10 子ども・養育者の心理臨床：子ども・養育者における精神の障害への理解と支援 11 子どもの情緒・社会性の問題①：非社会的行動への理解と支援 12 子どもの情緒・社会性の問題②：反社会的行動への理解と支援 13 子どもの情緒・社会性の問題③：臨床社会心理学的な行動への理解と支援 14 子どもの教育支援：教育委員会の活動と教育支援（就学相談） 15 子ども相談と連携：地域での専門職連携（IPW）とソーシャルワーク、関係機関（児童相談所・児童家庭支援センター・教育委員会・児童発達支援事業所等）との連携、幼小の円滑な接続 				
授業の留意点	ケース・スタディやグループ・ワークでは積極的に参加し、活発に意見を述べ合ってもらいたい。予習は教科書を用いて行い、復習は配布された資料により為されることが期待される。				
学生に対する評価	試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物は毎時の「気づきと学び」ペーパーの作成・提出である。				
教科書（購入必須）	吉田武男監修 高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男 編 2019 『MINERVA はじめて学ぶ教職16 教育相談』 ミネルヴァ書房				
参考書（購入任意）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 藤田和弘 著 2019 『「継次処理」と「同時処理」 学び方の2つのタイプ：認知処理スタイルを生かして得意な学び方を身につける』 図書文化社 (2) 菊野春雄 編 2016 『乳幼児の発達臨床心理学：理論と現場をつなぐ』 北大路書房 (3) 陳省仁・古塚孝・中島常安 編 2003 『子育ての発達心理学』 同文書院 (3) 佐伯胖 著 2014 『幼児教育へのいざない：改訂増補版』 東京大学出版会 (4) 佐伯胖・大豆生田啓友・汐見幸幸ほか 著 2013 『子どもを「人間としてみる」ということ』 ミネルヴァ書房 (5) 小山充道 編・糸田尚史 分担執筆 2008 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版 (6) マクナミー&ガーゲンほか 著（野村・野口 訳） 2014 『ナラティブ・セラピー』 遠見書房 				

科 目 名	児童文化演習				
担当教員名	堀川 真・石本 啓一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目				
学習到達目標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面での活用意欲を高める。 絵本作家との対話を通し、絵本の魅力と表現への理解を深める。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本読み聞かせの実演を全員に課す。 ・展開可能な工作を多く身につけ、子どものうちにある同時代的文化に速やかに対応できるようにする。 ・パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。 ・動物園に行き、動物の特性を理解し、描く際のポイントを知る。 ・絵本作家による講義を通して絵本の魅力を理解するとともに、着想の背景や完成までの過程を知る。 				
授業の計画	1 オリエンテーション (担当:堀川) 2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川) 3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川) 4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川) 5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川) 6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川) 7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川) 8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川) 10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川) 11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川) 12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川) 13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川) 14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川) 15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川) 17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川) 18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川) 19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川) 20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川) 21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本) 22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本) 23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本) 24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本) 25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本) 26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本) 27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本) 28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本) 29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本) 30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)			
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を提示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書(購入必須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。				
参考書(購入任意)	特になし				

科 目 名	自然保育実践演習				
担当教員名	三井 登・菊池 稔				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	自然に対する理解を深める。自然の中で生活することができる。自然の中で遊びをつくりだすことができる。リーダーとしての力を身につける。				
授業の概要	この授業は、子どもの発達と自然の関係について理論的に学び、地域の自然環境を生かした保育実践を構想し、実践的に学び、方法を習得することを目的とする。子どもと自然の関係に関する理論と、先住民族文化、人間と自然の対立構造などを理論的に学ぶ。四季を通じた自然の中での生活や遊びの保育計画を5領域との関係を明確にしながら構想し実践することを通じて方法的理解を深める。方法の習得によって、自然体験リーダーの素養を身に付ける。				
授業の計画	1 ガイダンス 道北の自然	16 自然の中で生活するー野山で自生するものを食べるー			
	2 春の森ー名寄の森あるき	17 自然の中で遊ぶー名寄の森あるきー			
	3 保育における自然ー豊かな自然を生かすー	18 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）			
	4 保育における自然ー都市部の実践 身近な自然を感じるー	19 秋の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）			
	5 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）	20 自然の中で遊ぶー名寄の森あるき 冬ー			
	6 春の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）	21 自然の中で遊ぶー名寄の森歩き 冬ー			
	7 奥山、里山、宮沢賢治	22 森と経済の関係			
	8 先住民族と自然	23 森と社会の関係			
	9 野生動物と人間	24 自然の中で遊ぶー雪遊び 寒さを利用した遊びー			
	10 リーダー論	25 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー			
	11 自然の中で生活するー住居ー	26 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー			
	12 自然の中で生活するー食器をつくるー	27 自然の中で遊ぶー雪遊び 雪の特徴を生かした遊びー			
	13 自然の中で生活するー火おこし ご飯を炊くー	28 冬の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）			
	14 自然の中で生活するー食事を作る 汁物を作るー	29 冬の道北の原生林 北大雨竜研究林での演習（研究林の教職員と連携）			
	15 自然の中で生活するー野山に自生するものを食べるー	30 グループワークー振り返りとまとめの発表ー			
授業の留意点	健康上の配慮が必要な学生は事前に相談すること。配布した資料や、野外活動で見た自然界の諸々のことについて、図鑑などで調べて復習しておくこと。				
学生に対する評価	提出物100点				
教科書（購入必須）	なし				
参考書（購入任意）	講義時に提示する。				

科目名	生活				
担当教員名	菊池 稔				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活科と幼児教育との教育内容の関わりを把握する。 具体的な作業を通して、遊びや活動の意味づけを理解する。 				
授業の概要	幼稚園教育と生活科のつながりについて実践的な活動を通して理解する。さらに、我が国の自然観と生活科の関連、地域に根付いた文化、環境を知り教材に活用する手法を発掘する。授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 講義計画、評価方法 大学の自然環境① 身の回りの自然観察 大学の自然環境② 身の回りの自然を教材にする 大学の自然環境③ 教材発表 生活科の背景と考え方 生活科の目標と内容 生活科と幼児教育・保育とのつながりと関わり 生活科とアクティブラーニング 地域の教育資源を知る 地域の歴史・文化・環境にふれる① 地域の中から教材となり得るテーマを発見する 地域の歴史・文化・環境にふれる② 発見したテーマを探求する① 地域の歴史・文化・環境にふれる③ 探求学習② 探求学習発表① 探求学習発表② まとめ 				
授業の留意点	授業はグループワーク、ワークショップ形式を用いて進めていくので、活発な議論を行う上で予習を行うこと。野外で観察を行う時は、前時にアナウンスするので行動しやすい服装、準備をすること。				
学生に対する評価	授業の取り組み方・意欲 20 点、制作物 20 点、発表 20 点、定期試験 40 点				
教科書 (購入必須)	文部科学省「小学校学習指導要領生活編」				
参考書 (購入任意)	幼稚園教育要領、保育所保育指針、その都度紹介する。				

科 目 名	国語				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	(1) 人間の言葉が発達するとはどういうことかを考えることができる。 (2) 子どもの言葉の発達を支える保育、教育について考えることができる。 (3) 1、2に基づいて、保育、小学校国語科などの言葉に関わる多様な実践を捉え直せるようになる。				
授 業 の 概 要	前半は、言葉の発達にかかわる保育者に必要とされる知識を学ぶ。その知識はワークショップやディスカッションを通して獲得され、「言葉」について既に持っている常識が問い直される。それに基づいて後半は、保育をはじめとする言葉に関わる多様な実践を読み解き、言葉の発達における保育者の役割について理解を深める。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 言葉の進化① チンパンジーと人間の比較 3 言葉の進化② 意味世界をつくり出す 4 人間の言葉の発達① 音と言葉の比較 5 人間の言葉の発達② 他者との協働における言葉の役割 6 人間の言葉の発達③ 想像における言葉の役割 7 人間の言葉の発達④ ごっこ遊び、描画、書き言葉 8 言葉に関わる多様な実践① 夜間中学 9 言葉に関わる多様な実践② 精神障害者施設 10 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる① 0～2歳児の言葉遊び 11 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる② 3～5歳児の言葉遊び 12 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる③ 0～2歳児の描画と文字 13 言葉に関わる保育実践記録を読んでもみる④ 3～5歳児の描画と文字 14 保育と小学校国語科の関係 15 まとめ				
授 業 の 留 意 点	さまざまなワークショップやディスカッションを行う。積極的に参加して欲しい。				
学 生 対 する 評 価	授業への参加を20点、課題提出を30点、期末レポートを50点として評価する。				
教 科 書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。				
参 考 書 (購入任意)					

科目名	音楽 I				
担当教員名	三国 和子				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	保育者に求められる音楽理論に関する基礎的知識、歌唱や器楽、リズム運動等、幼児に指導するための基礎的技能を修得し、音楽に対して肯定的な態度を身につける。 子どもが他者と楽しさを共有できる音楽活動を構成し、実践できる。				
授業の概要	おとなとは異なる子どもの音楽表現の様態を理解し、保育者に求められる音楽の基礎的知識・技能を修得する。知識・理論とともに実技を行い、身体の動きと結びついた音楽表現や、幼児期に適した歌唱や器楽のあり方について学ぶ。さらには、音楽に対して肯定的な態度を身につけることをめざす。				
授業の計画	1 音名と階名、音部記号（理論と音楽あそびの演習）	16	子どもと楽しむ音楽会の構想 役割分担		
	2 リズム(1)拍とテンポ（理論と音楽あそびの演習）	17	歌唱の基礎		
	3 リズム(2)拍子と音符の長さ（理論と音楽あそびの演習）	18	子どもの歌(1) ピアノを用いて		
	4 リズム(3)さまざまなパターン（理論と音楽あそびの演習）	19	子どもの歌(2) リコーダーを用いて①		
	5 長調と短調、♯とbなど（理論と音楽あそびの演習）	20	子どもの歌(3) リコーダーを用いて②		
	6 楽譜のリテラシー、音を聴く（理論と音楽あそびの演習）	21	合唱		
	7 音楽と動き(1) わらべうた①	22	子どもの歌(4) 替え歌		
	8 音楽と動き(2) リトミック①	23	音楽遊びをつくる		
	9 音楽と動き(3) わらべうた②とリトミック②	24	子どもと楽しむ音楽会(1) 企画立案		
	10 音楽と動き(4) ダンス① 拍を意識したステップ	25	子どもと楽しむ音楽会(2) グループごとの準備、プログラム決定		
	11 音楽と動き(5) ダンス②幼児に適した音楽と動き	26	子どもと楽しむ音楽会(3) グループごとの準備		
	12 音楽と動き(6) 音楽遊び	27	子どもと楽しむ音楽会(4) グループごとの準備、手直し		
	13 楽器遊び(1) 幼児に適した楽器	28	子どもと楽しむ音楽会(5) リハーサル		
	14 楽器遊び(2) ミュージックベル	29	子どもと楽しむ音楽会(6) 本番		
	15 楽器遊び(3) 合奏	30	音楽会の振り返り		
授業の留意点	場合によっては動きやすい服装が必要となる。				
学生に対する評価	ペーパーテスト（60点）、日常の課題・実技評価（40点）により評価する。				
教科書（購入必須）	小林美実『こどものうた200』チャイルド社、『たのしいドレミファランド』。 （購入については担当教員から別途指示） 必要に応じてプリントを配付。				
参考書（購入任意）					

科目名	音楽Ⅱ（ピアノ）				
担当教員名	三国 和子・会見 泉・上田 明美・尾崎 美千代・鎌塚 香代				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	選択	資格要件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、簡単な楽譜やコードネームを見て、子どもの歌のピアノ伴奏ができる能力を修得する。				
授業の概要	まず、子どもが歌唱する際に楽曲の習熟度に応じてピアノ伴奏ができるよう、コードネームによる伴奏付けを学ぶ。次に、他者のリズムに合わせて演奏できるよう連弾を行う。さらに、個々の演奏技術を高めるためにソロ曲の演奏も行う。				
授業の計画	1 コードネームの基礎（メジャーコード、マイナーコード、セブンス）	16	連弾(1)個人練習(1) 譜読み・補正		
	2 右手メロディーと左手和音(1)C、F、Gを中心に	17	連弾(2)個人練習(2) アゴーギグ、ダイナミクス		
	3 右手メロディーと左手和音(2)G、C、Dを中心に	18	連弾(3)流れの確認		
	4 右手メロディーと左手和音(3)F、Bb、Cを中心に	19	連弾(4)総合表現 ダイナミクス、バランス		
	5 右手メロディーと左手和音(4)Am、Dm、 E、Em、B、を中心に	20	連弾(5)総合表現 アゴーギグ、タイミング		
	6 右手メロディーと左手和音(5)Gm、Aを中心に	21	連弾(6) 仕上げ		
	7 右手和音と左手ベース音(1)メジャー	22	連弾発表会（前半グループの演奏）		
	8 右手和音と左手ベース音(2)マイナー	23	連弾発表会（後半グループの演奏）		
	9 右手和音と左手ベース音(3)ベース音の動き	24	ソロ曲練習(1)譜読み		
	10 右手和音と左手ベース音(4)ディミニッシュ、オーギュメント	25	ソロ曲練習(2)譜読みの補正		
	11 右手和音と左手ベース音(5)メジャーセブンス	26	ソロ曲練習(3)譜読みの補正、ダイナミクス		
	12 右手和音と左手ベース音(6)サスペンディド	27	ソロ曲練習(4)譜読みの補正、アゴーギグ		
	13 右手和音と左手ベース音(7)歌唱伴奏	28	ソロ曲練習(5)総合表現、暗譜		
	14 伴奏付け発表会（前半グループの演奏）	29	ソロ曲練習(6)総合表現、暗譜の補正		
	15 伴奏付け発表会（後半グループの演奏）	30	ソロ曲練習(7)仕上げ		
授業の留意点	グループ単位での個人レッスンを基本的な授業形態とするため、特に欠席・遅刻等についての連絡を怠らないこと。				
学生に対する評価	前期に行う伴奏付け発表会（20点）、後期に行う連弾発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。				
教科書（購入必須）	『新版 たのしいドレミファ・ランド』教育芸術社 大学音楽教育研究グループ編『歌唱教材伴奏法』教育芸術社 ※購入については担当教員から別途指示。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	音楽Ⅱ（ギター）				
担 当 教 員 名	松本 敏正				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	音楽Ⅰでの学修を踏まえ、アコースティックギターを用いて子どもの歌の伴奏ができる技術的能力を修得する。				
授業の概要	演奏しながら子どもたちの輪の中を自由に移動できるギターは、保育現場で子どもが歌う際の伴奏楽器として、大きな利点がある。また、自由性の高い演奏が可能な点から、子どもたちの創造性、コミュニケーション力を育む効果が期待出来る。この授業では、アコースティックギターによる伴奏法を学ぶ。左手でコードをおさえ、右手でストロークやアルペジオ、スリーフィンガーなどの奏法を用いて演奏できるようにし、最終的には弾き語りしながら歌うことが出来るように、段階を踏んで演奏技術の向上を目指す。				
授業の計画	1 アコースティックギターに必要な基礎知識、チューニングの仕方について	16	前期ストローク曲の総復習		
	2 コードネーム、ダイアグラムの基礎、基礎練習クロマチック練習	17	アルペジオ演奏の基礎		
	3 主要コードの押さえ方（C、G、D）	18	様々なアルペジオのパターン		
	4 主要コードの押さえ方（Bm、Em、Am）、押さえ方の練習	19	アルペジオで伴奏しながら歌唱練習		
	5 コードチェンジのコツ、ストローク練習	20	課題曲練習		
	6 弦交換の仕方から、実践まで	21	ストローク、アルペジオを組み合わせた弾き方		
	7 主要コードの応用（セブンスコード）	22	ストローク、アルペジオを応用した様々な曲の練習		
	8 セブンスコードを使用した童謡曲	23	グループ分け、曲決め		
	9 バレーコード（F、Bなどを中心に）	24	グループ発表練習①		
	10 主要コードの応用（add9th、sus4）	25	グループ発表練習②		
	11 ミュート、カッティングについて	26	グループ発表練習③		
	12 様々な応用テクニック（ハンマリングオン、プリングオフ、スライド）	27	グループ発表仕上げ（表現の仕方、弾き方等）		
	13 ストロークで伴奏しながら歌唱練習	28	グループ発表会（前半）		
	14 ソロ曲発表会（前半）	29	グループ発表会（後半）		
	15 ソロ曲発表会（後半）	30	弦交換、メンテナンス		
授業の留意点	基本的には、ギターの初学者・初心者を対象とした実技授業である。				
学生に対する評価	前期に行う伴奏付けソロ発表会（20点）、後期に行うグループ発表会（20点）およびソロ発表会（20点）の演奏、および日常の課題への取り組み（40点）による。				
教科書（購入必須）	『知識ゼロからのアコースティック・ギター入門（ゴンチチ）』幻冬舎				
参考書（購入任意）					

科 目 名	図画工作 I				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目				
学習到達目標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感し楽しむことができる。				
授業の概要	造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。				
授業の計画	1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作 2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッターージュ) 3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー) 4 工作 (1) お面、かぶりもの 5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装 6 工作 (3) ストロー人形 7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ 8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット 9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ 10 工作 (7) 紙版画、ステンシル 11 工作 (8) とびだすカード 12 工作 (9) 折紙 13 工作 (10) 音を出してみる 14 工作 (11) 壁面構成 15 まとめ				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書 (購入必須)	特になし				
参考書 (購入任意)	『3・4・5 歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)				

科 目 名	図画工作Ⅱ				
担当教員名	堀川 真				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
実務経験及び授業内容	児童相談所と児童家庭支援センターにおいて児童文化の実務経験を有する教員が、子どもの「造形想像」発展に有効とされる技能・知見について指導する科目				
学習到達目標	「図画工作Ⅰ」での学修を踏まえ、応用的造形技法の制作を通し、保育活動の幅を広げる可能性と留意点を考えることができる。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「図画工作Ⅰ」での学修を基礎とし、一般的な幼児のための造形技法のみならず、より高度な技法な制作活動を行う。 ・日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（木工・箸をつくる） 2 窯芸（1） 成形 3 窯芸（2） 焼成 4 仮装（1） 構想と制作 5 仮装（2） 制作と発表会 6 紙版画（1） カレンダー制作・製版 7 紙版画（2） カレンダー制作・印刷 8 人形劇・影絵劇をつくる（1） 構想・脚本の制作 9 人形劇・影絵劇をつくる（2） 役割の分担 10 人形劇・影絵劇をつくる（3） 人形をつくる 11 人形劇・影絵劇をつくる（4） 背景をつくる 12 人形劇・影絵劇をつくる（5） 発表準備・人形操作および光の理解と工夫 13 人形劇・影絵劇をつくる（6） 発表準備・人形操作および光の工夫と修正 14 人形劇・影絵劇をつくる（7） 発表会 15 まとめ 				
授業の留意点	必要に応じて道具・材料を指示するので準備すること。				
学生に対する評価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教科書 (購入必須)	必要に応じてその都度、プリントを配付する。				
参考書 (購入任意)	特になし。				

科 目 名	体育				
担 当 教 員 名	三井 登				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	体育に関する保育内容を理解し、子どもの運動遊びを豊かに展開するために必要な知識・技術を習得する。				
授 業 の 概 要	子どもの発達と運動機能の関係や身体に関する知識技術について学ぶ。地域の環境を生かした運動遊びの指導法、様々な遊具、用具、素材等の特性を生かした教材研究に基づく運動遊びの指導法を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 子どもの発達と運動機能 運動機能の系統的発達 欲求と運動 3 子どもの身体発達と食 4 食育を通じた身体づくり実践の事例紹介 5 生活リズムの構築と運動指導 6 教材研究の視点 運動遊びの系統的指導 理論的根拠 7 教材研究(1) 道具を使った運動遊び 伝承遊び 8 教材研究(2) 道具を使った運動遊び ボールを使った遊びの指導法 9 教材研究(3) 道具を使った運動遊び 縄跳び遊びの指導法 10 模擬授業(1) 運動遊びの系統的指導 指導計画の作成 11 模擬授業(2) 運動遊びの系統的指導 指導計画の実践 12 環境設定と運動遊び 13 環境に働きかける運動遊び 14 運動遊びを導く環境の創造 15 学習のまとめと振り返り 				
授 業 の 留 意 点	模擬授業を含むため、動きやすい服装と靴を用意すること。既往症がある場合は、必ず事前に報告すること。授業で紹介した文献等については、授業後に参照しておくこと。				
学 生 に 対 する 評 価	提出100点により評価する。				
教 科 書 (購入必須)	特になし。その都度、必要な資料を配付する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	児童文化				
担 当 教 員 名	堀川 真				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：選択
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な「児童文化」に関する知識と実際を知り、その特性や実践上の留意点について理解する。 ・ 「児童文化」が保育分野に果たす役割を考える中で日本の子ども文化の特性を知る。 ・ 幼稚園・保育所・学校・地域における文化活動の発展の方向を考える。 				
授 業 の 概 要	伝承あそびからおもちゃ・絵本・人形劇・紙芝居・テレビ等まで、児童文化が果たす役割をできるだけ実例提示、実演する中で紹介し、その特性と課題について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況 2 あそびについて 「あそび」の持つ意味と集団づくりに役立つ遊び 3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演 4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ 5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介 6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様 7 紙芝居について 発達史と上演の留意点 8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇 9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力 10 絵本小史 絵本の歴史と20世紀初頭海外の展開 11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開 12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮 13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫 14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について 15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表 				
授 業 の 留 意 点	講義科目ではあるが、科目の性格上、多少の演習を含む。				
学 生 対 する 評 価	授業における取り組みと提出物(70点)、内容(30点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。				

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援				
担 当 教 員 名	郡司 竜平				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た内容を話題に討論し指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> (1) インクルーシブ保育を支える理念、 (2) 障害等の理解と保育における発達の援助、 (3) インクルーシブ保育の実際、 (4) 家庭及び関係機関との連携、 (5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？） 2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援） 3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度） 4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性） 5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状） 6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状） 7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育園・幼稚園の現状） 8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：差別について） 9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携） 10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携） 11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成） 12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために） 13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで） 14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性） 15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題） 				
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	リアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亜希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年				

科 目 名	障がい児福祉				
担 当 教 員 名	大友 愛美				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	発達障がいを正しく理解することで、合理的配慮の具体的な方法をイメージできるようになる。				
授業の概要	実践現場で活用できるスキルを習得するために、障がいの考え方を学んだうえで、実践現場で行われている具体的な支援方法を学ぶ。実践場面の映像（動画や写真）を使いながら、アセスメントや支援の組み立てなどを実際に行い、グループでフィードバックする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 発達支援の実際—福祉的な援助の視点とは— 2 障がいの概念—ICFの理解—（社会モデルの視点） 3 ASD（自閉スペクトラム症）を正しく理解する（自閉症の世界を体験する） 4 ASD の子どもたちとのかかわり方 1（行動特性と認知特性を理解する） 5 ASD の子どもたちとのかかわり方 2（アセスメントの実際） 6 ASD の子どもたちとのかかわり方 3（課題分析と支援の実際） 7 ASD の子どもたちとのかかわり方 4（支援の修正と自立課題） 8 ASD の子どもたちとのかかわり方 5（自立支援と社会のルール） 9 ASD の子どもたちとのかかわり方 6（コミュニケーション支援の方法） 10 ASD の子どもたちとのかかわり方 7（知的障がいのない ASD の子どもへの支援） 11 LD の子どもたちへのかかわり方（LD と学習機会の保障） 12 ABA と ABC 機能分析（行動に意味があることを知る） 13 ADHD の子どもたちへのかかわり方（発達障がいと二次障害） 14 家族支援からみたコミュニケーション支援（家族支援と本人支援の関係性） 15 特性理解を広めるために（家族支援の必要性和チーム連携） 				
授業の留意点	演習科目のため、数コマ続きの内容もあるため、欠席のないよう留意すること。				
学生に対する評価	レポート（70点）および授業後の小レポート（30点）				
教科書（購入必須）	その都度必要に応じてプリントを配布する。				
参考書（購入任意）	テンプル・グランディン／リチャードパネク著『自閉症の脳を読み解く』2014年NHK出版 トーマス・E・ブラウン著『ADHD 集中できない脳をもつ人達の本当の困難』2010年診断と治療社				

科 目 名	障害児支援の基礎理論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、特別支援教育やインクルーシブ教育システムについて指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システムの概要について説明することができる。 2 発達障害や講義で取り扱った各障害の特性について説明することができる。 3 就学支援の制度や特別支援教育コーディネーターの役割について説明することができる。 				
授業の概要	障害児への適切な支援をするために、特別支援教育を推進するための体制整備、インクルーシブ教育システム、発達障害等の障害特性に関する知識を習得する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 特殊教育から特別支援教育への転換の経緯 2 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システム 3 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（1）LD、ADHD 4 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（2）自閉症スペクトラム障害 5 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（3）視覚障害、聴覚障害 6 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（4）知的障害 7 特別な支援を必要とする幼児児童生徒の理解と支援（5）肢体不自由、病弱・身体虚弱 8 特別支援学校の教育課程 9 特別支援学級と通級による指導の教育課程 10 個別の教育支援計画と個別の指導計画 11 就学支援と福祉制度 12 特別支援教育コーディネーターと校・園内支援体制 13 関係機関と連携した支援体制 14 特別支援学校の教育の実際 15 インクルーシブ教育システムと共生社会 				
授業の留意点	予習では、シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。復習では、講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。				
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、試験（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	教職をめざす人のための特別支援教育：福村出版				
参考書（購入任意）					

科 目 名	知的障害者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	奥村 香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。				
授 業 の 概 要	定型発達について再確認するとともに、原因に基づいた発達の様態や表象に現れる様々な特徴を、メカニズムとして理解することが求められる。全般的な知識としてではなく、機序や構造を捉えた知的障害の理解を促すようにするため、協議機会を多く持つ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習 2 知的障害の定義 障害の認定と教育 3 知的障害の分類と障害の要因 知的障害の発生機序、学習や行動の特徴 4 社会的に増悪する知的障害 社会的相互作用、評価 5 遺伝の仕組みと異常 遺伝形質、先天性、後天性、内因、外因 6 脳機能の発達 定型発達児の発達 7 脳機能の障害 認知、脳波、脳血流量、認知神経心理学、生理心理学 8 知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力 9 脳機能障害児の運動特性 操作、協調性運動発達障害 10 知的障害児の言語発達 他者意図理解、共同注意、自閉症 11 知的障害児の社会性の発達 経験、学習 12 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、応用行動分析 13 ダウン症候群 染色体異常、行動特性、学習特性 14 Williams 症候群 染色体異常、行動特性、学習特性 15 その他の染色体異常 コーネリア・デ・ランゲ、フェニールケトン尿症、レット症候群、ソトス症候群 				
授 業 の 留 意 点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学 生 対 対 する 評 価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	藤川 雅人・田中 肇				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員と医療型障害児入所施設の院長である医師が、肢体不自由児の心理・生理・病理及び支援について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由の主な起因疾患について説明することができる。 2 肢体不自由児の障害特性や健康管理について説明することができる。 3 肢体不自由児の支援について自分の考えを述べるができる。 				
授 業 の 概 要	肢体不自由児への適切な支援をするために、肢体不自由児の障害特性や健康管理、肢体不自由の起因疾患、脳性麻痺等の病態に関する知識を習得する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由とは 2 運動発達の仕組み 3 運動発達と障害 4 肢体不自由の起因疾患 5 脳性麻痺の病態と支援 6 神経・筋疾患の病態と支援 二分脊椎と筋ジストロフィー 7 療育支援の考え方 生活支援の重要性 8 肢体不自由児の障害特性（1） 視知覚と知能 9 肢体不自由児の障害特性（2） 行動特性と障害受容 10 肢体不自由児の健康管理 11 肢体不自由児のリハビリテーション 12 肢体不自由児の社会性 13 肢体不自由児のコミュニケーション 14 肢体不自由児の就学 15 肢体不自由児の支援 				
授 業 の 留 意 点	予習では、シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。復習では、講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。				
学 生 対 する 評 価	毎回のリアクションペーパー（30点）、2回のレポート（70点）により評価する。				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	中澤 幸子・下村 遼太郎				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験、医療機関における医師としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。 ・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。 ・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。 				
授業の概要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち (中澤担当) 2 健康、病気、障害の概念 (中澤担当) 3 病気・障害の受容とセルフケア (中澤担当) 4 病弱者・障害者の心理的特性 (中澤担当) 5 病弱者・障害者と家族の支援 (中澤担当) 6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 (中澤担当) 7 小児科の立場からみた正常発達、新生児疾患、先天異常 (下村担当) 8 子どもの病気：感染症、予防接種 (下村担当) 9 子どもの病気：循環器疾患、免疫・アレルギー性疾患 (下村担当) 10 子どもの病気：消化器疾患、呼吸器疾患 (下村担当) 11 子どもの病気：血液・腫瘍性疾患、代謝内分泌疾患 (下村担当) 12 子どもの病気：腎泌尿器疾患、神経筋疾患 (下村担当) 13 小児科の立場からみた発達障害、小児精神疾患、児童虐待 (下村担当) 14 病弱者の支援における今日的課題 (中澤担当) 15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと (中澤担当) 				
授業の留意点	<p><予習(事前学習)>病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を、事前学習において行っておきましょう。</p> <p><復習(事後学習)>授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組みましょう。また、全ての授業において、配布された資料を参考にしてノートを整理し、知識の定着を図りましょう。</p> <p>特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害(知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等)についても理解を深めておきましょう。</p>				
学生に対する評価	下村授業担当分 50 点 (評価方法の詳細は、授業開始に確認)、中澤担当授業分 50 点 (授業のまとめシート 15 点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 15 点、課題レポート 20 点)、として、2 名の教員の総合点 (満点は 100 点) によって評価します。				
教科書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。				
参考書 (購入任意)	小野次朗・西牧謙吾・榎原洋一編著：特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理 ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623061532				

科 目 名	知的障害者教育課程論				
担 当 教 員 名	郡司 竜平				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育内容や仕組みを体系的に指導する科目				
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。				
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立 2 障害児教育の概要(1) 特別支援学校の教育の実際 3 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際 4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に 5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級） 6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準 7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備 8 教育課程の開発と編成 個別の教育支援計画、個別の指導計画 9 各教科の指導 10 領域の指導 自立活動 11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習 12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価 13 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発 14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制 15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（30点）、最終試験結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亜希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	知的障害者教育方法論				
担 当 教 員 名	郡司 竜平				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育内容を方法について体系的に指導する科目				
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-See）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
授業の概要	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害のある子どもの理解と教育 2 行動観察とアセスメント 3 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について① 4 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について② 5 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論 6 応用行動分析学に基づく支援（2）行動の形成と強化 7 応用行動分析学に基づく支援（3）課題分析と連鎖化 8 自立活動と個別の指導計画の作成（1） 9 自立活動と個別の指導計画の作成（2） 10 授業の工夫と改善（1）各強化の指導 11 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導 12 自閉スペクトラム症のある人の事例で学ぶ 13 ダウン症のある人の事例で学ぶ 14 重度重複障害の事例で学ぶ 15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ） 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	毎回の講義における小レポート（30点）と期末レポート課題の結果（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019				
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 郡司竜平著『特別支援教育 ONE テーマブック ICT活用新しいはじめの一步』学事出版 2019				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員が、肢体不自由教育の教育内容や方法、教育課程の基本について指導する科目				
学習到達目標	1 肢体不自由教育の歴史の変遷を説明することができる。 2 肢体不自由教育の教育課程の特徴を説明することができる。 3 肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を説明することができる。 4 肢体不自由教育に必要な専門性について自分の考えを述べるができる。				
授業の概要	肢体不自由教育の意義を理解するために、肢体不自由教育の歴史や制度、教育課程に関する知識を習得し、肢体不自由児への指導や支援の基礎について学ぶ。				
授業の計画	1 肢体不自由の定義 肢体不自由と教育 2 肢体不自由教育の歴史 肢体不自由教育の萌芽と発展 3 肢体不自由教育の現状 学習の場と対象 4 肢体不自由児の障害特性 障害特性と実態把握 5 肢体不自由教育の教育課程（1） 教育課程編成の基本 6 肢体不自由教育の教育課程（2） 教育課程に関する法令等の規定 7 肢体不自由教育の教育課程（3） 特別支援学校における教育課程編成 8 肢体不自由教育の教育課程（4） 小・中学校における教育課程編成 9 肢体不自由教育の教育課程（5） 自立活動 10 重度・重複障害の教育（1） 授業の実際① 11 重度・重複障害の教育（2） 授業の実際② 12 重度・重複障害の教育（3） 医療的ケア 13 肢体不自由児のキャリア教育 キャリア教育と進路指導 14 肢体不自由児の家族支援 肢体不自由児と家族への支援 15 肢体不自由教育の今後の課題 教師の専門性				
授業の留意点	予習では、シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。復習では、講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。				
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				

科 目 名	肢体不自由者教育方法論				
担 当 教 員 名	藤川 雅人				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員が、肢体不自由児の実態把握、指導や支援、授業実践について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 個別の教育支援計画や個別の指導計画について説明することができる。 2 自立活動の意義について説明することができる。 3 肢体不自由児を対象とした学習指導案の作成をすることができる。 				
授 業 の 概 要	肢体不自由教育の実践をするために必要な個別の諸計画を踏まえた指導内容や指導方法に関する知識を習得し、肢体不自由児への適切な指導について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由教育の実際 肢体不自由児の事例 2 肢体不自由児の実態把握 運動、コミュニケーション、社会性のアセスメント 3 個別の教育支援計画 他機関との連携 4 個別の指導計画 諸計画との関連性 5 自立活動（1） 自立活動の意義と目標や内容 6 自立活動（2） 指導の進め方 7 各教科の指導（1） 学習支援の方法 8 各教科の指導（2） 指導の工夫と留意点 9 各教科等を合わせた指導（1） 日常生活の指導、遊びの指導 10 各教科等を合わせた指導（2） 生活単元学習、作業学習 11 学習指導案の作成（1） 単元設定の理由、目標設定 12 学習指導案の作成（2） 学習内容 13 学習指導案の作成（3） 授業評価 14 授業改善 授業研究 15 肢体不自由教育のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	予習では、シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。復習では、講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。				
学 生 対 する 評 価	毎回のリアクションペーパー（30点）、期末レポート（70点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）				

科 目 名	病弱者教育論				
担 当 教 員 名	中澤 幸子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	病弱者教育の歴史と意義について理解し、病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について概要を把握するとともに病弱者教育の現代的課題について見通すことを目的とする。				
授業の概要	病弱者教育の歴史から病弱者教育が果たしてきた役割について学び、病弱者教育の意義と課題について学ぶ。病弱者教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱者教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 授業の進め方、学習マップ 1 2 病弱者教育の歴史的変遷と定義 療育から教育へ 3 病弱者教育の意義と目的 学ぶ権利の保障、教育課程の整備 4 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、内分泌疾患 5 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 腎・泌尿器疾患 6 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 心疾患、筋疾患 7 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(4) 重症心身障害 8 死について考える ターミナル期にある子どもの教育 9 自分自身を振り返る 命の選択 10 病気とともに生きるということ グループワークの協議を通して 11 拡大する病弱者教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患 12 病弱者教育の設置基準と教育の場 特別支援学校、学級、院内学級 13 病状に合わせた指導計画 集団の形成、授業時数の設定 14 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携 連携のあり方、連絡帳、病状ノート 15 病弱者教育の現代的課題 医療の高度化、病気の多様化 				
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。				
学生に対する評価	講義中の協議課題 (20 点)、課題の取組状況 (30 点)、レポート (50 点) により評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)	病気の子どもの教育入門：クリエイツかもがわ 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説 (総則等編) 特別支援学校学習指導要領解説 (自立活動編) 特別支援教育の指導法：教育出版				

科 目 名	視覚障害者教育総論				
担当教員名	星 祐子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	視覚障害の概要を生理・病理の観点から理解し、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法などについて学び、視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。				
授業の概要	本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。 1. 視覚障害の概要（生理・病理）及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法				
授業の計画	1 視覚障害の生理及び病理と視覚管理① 視覚障害の定義、視覚器の構造と視覚障害 2 視覚障害の生理及び病理と視覚管理② 視機能と視覚障害、眼疾患と教育的配慮 3 視覚障害の心理特性、発達を規定する要因と発達の特徴、アセスメント、観察評価 4 視覚障害教育の歴史と制度、交流及び共同学習 5 教育課程と指導計画① 教育課程の意義、教育課程の編成と指導計画の作成 6 教育課程と指導計画② 学習指導要領 7 指導内容及び指導方法① 視覚障害教育における指導上の配慮事項、盲児の触知覚の特性、点字の読み書きの指導、空間概念の指導、歩行指導、言葉と事物・事象の対応の指導 8 指導内容及び指導方法② 弱視児の視知覚の特性 重複障害児の指導、教材教具				
授業の留意点	視覚障害の疑似体験や演習なども行うため、積極的に講義に参加すること。				
学生に対する評価	提示課題の取り組み状況（30点）、レポート課題（70点）により評価する。				
教科書（購入必須）	適宜、プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	視覚障害教育入門 ジアース教育新社 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）				

科 目 名	聴覚障害者教育総論				
担 当 教 員 名	庄司 和史				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校（聴覚障害）教諭として実務経験のあるの教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目				
学習到達目標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。				
授業の概要	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害の生理及び病理① 聴覚障害の定義、聴覚の構造と障害 2 聴覚障害の生理及び病理② 聴覚機能と聴覚障害、疾患と教育的配慮 3 聴覚障害の心理特性と発達 コミュニケーション、社会性、学習 4 障害の早期発見と早期療育 心理的支援、保護者支援、補聴器、人工内耳 5 聴覚障害教育の歴史と制度 聾啞学校、ろう学校、口話法、手話法 6 聴覚障害教育における教育課程と指導計画① 各教科の指導 7 聴覚障害教育における教育課程と指導計画② 各領域の指導、自立活動 8 授業の実際 「個別の指導計画」、学習指導案、まとめ 				
授業の留意点	聴覚障害の疑似体験なども行うため、積極的に参加すること。 授業資料を事前に配付するので授業日前に目を通し、流れをつかんでおくこと。 全体の復習（まとめ）として授業の中で提示する視覚教材（絵話教材）を使い、それぞれ授業計画案を立てて、レポートとして提出すること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、提示課題の取り組み状況（20点）、レポート課題（60点）により評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021				

科目名	重複障害・発達障害の評価				
担当教員名	奥村 香澄				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士：必修・特支：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。				
授業の概要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメントの知識と技術を身につける。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 アセスメントとは 評価、心理、社会、生活 2 アセスメントの方法 観察、解釈、記録、聴き取り、定量的評価、定性的評価 3 重複障害の評価 反応形成、フィードバック 4 医療的数値 脳波、脳血流量、血中酸素、その他の数値 5 心理検査の理解① 認知理論、心理検査の発展過程 6 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義 7 心理検査の理解③ WISC-IV、KABC-II、DN-CAS 8 心理検査の実際① WISC-IV 9 心理検査の実際② DN-CAS と KABC-II 10 心理検査の解釈① WISC-IV 11 心理検査の解釈② DN-CAS と KABC-II 12 心理検査の解釈③ 総合的な解釈、検査レポート、倫理的責任、支援計画 13 保護者支援 障害受容、療育の見通し、家族との調整 14 自立支援 本人受容、将来設計 15 支援の実際 アセスメント、支援計画、介入、コンサルテーション 				
授業の留意点	実際の心理検査などを行うため、グループワークの際は欠席などの無いようにすること。				
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	重複障害・発達障害の教育				
担 当 教 員 名	奥村 香澄				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。				
授 業 の 概 要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様なニーズに応えられる知識と技能を身につける。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 重複障害とは 障害の重複、困難の重複、複合的な相互作用 2 重複障害の教育 教育課程、指導法 3 重複障害の予後 施設、病院、家庭、社会参加 4 発達障害とは LD、注意欠如/多動症(AD/HD)、自閉スペクトラム症 5 発達障害の困難 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する、コミュニケーション 6 発達障害の教育 通常学級、通級による指導、適応教室、不登校 7 発達障害の教育課程における位置づけ 特別支援教育 8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知 9 LD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害 10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害 11 自閉症スペクトラムの指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2次障害、アスペルガー症候群 12 発達障害の社会的自立 障害認定、適応 13 社会における発達障害 定義、啓発、受容 14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労 15 重複障害・発達障害のまとめ 自己認識、社会的相互作用、社会的背景 				
授 業 の 留 意 点	実際の発達障害支援の実務者の活動を取り混ぜる予定である。				
学 生 に 対 す る 評 価	講義における小レポート（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)	特別支援教育における障害の理解：教育出版				

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	藤川 雅人・郡司 竜平・奥村 香澄				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義や目的について説明することができる。 2 教育実習の内容を理解し、自らの課題を設定することができる。 3 学習指導案を作成することができる。 4 教育実習の総括と自己評価をし、新たな課題を設定することができる。 				
授業の概要	教育実習に取り組むために、教育実習の意義や目的、流れを理解するとともに、指導案の作成をする。また、教育実習の学びを深めるために、教育実習で学んだことを教育実習報告会において発表と協議をする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容（必要な書類や手続き） 3 幼児児童生徒の実態把握 4 個別支援と集団による授業における指導計画の立て方 5 教科における指導案の作成 6 教科における指導案の改善 7 教科等を合わせた指導の指導案の作成 8 教科等を合わせた指導の指導案の改善 9 実習前の確認事項 10 教育実習報告会① 6・7月期間の実習者 11 教育実習報告会② 8・9月期間の実習者 12 教育実習報告会③ 10月期間の実習者 13 教育実習報告会④ 11月期間の実習者 14 教育実習報告会⑤ 12月期間の実習者 15 教育実習の振り返り 				
授業の留意点	これまで履修した特別支援教育に関する授業科目の内容を復習するとともに、実習後は報告会で発表する内容をまとめておくこと。欠席・遅刻は十分に留意すること。				
学生に対する評価	提出物（30点）、教育実習報告会の発表（70点）				
教科書（購入必須）	教育実習日誌（第4版）学術図書出版社				
参考書（購入任意）					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	藤川 雅人・郡司 竜平・奥村 香澄				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	特別支援：必修
実務経験及び授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、教育実習生への指導経験を生かした指導をする科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援学校の役割や機能について説明することができる。 2 障害児の指導方法及び保護者への支援方法を身に付けることができる。 3 特別支援学校教諭の業務内容や職業倫理について説明することができる。 				
授業の概要	障害領域に対応した指導力を身に付けるために、特別支援学校での実習を通して、対象幼児児童生徒の実態把握、指導案の作成、教材研究、研究授業をする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教師の専門性及び服務 2 幼稚部から高等部及び専攻科を通した教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） 3 各教科等の授業参観 4 配属学級における学級経営の視点と方法 5 幼児児童生徒の実態把握 6 個別の指導計画と学級経営を基盤とした指導計画の作成 7 各教科等の指導計画の作成と教材研究 8 実習授業 9 研究授業 10 実習のまとめ 				
授業の留意点	予習として、実習校でのオリエンテーションを踏まえ、研究授業の準備をすること。復習として、実習で学んだことをまとめること。				
学生に対する評価	学習指導、生活指導、幼児児童生徒理解、実習態度について実習校担当者が評価した評価表（80点）と実習日誌の記載内容（20点）で評価する。				
教科書 （購入必須）					
参考書 （購入任意）					

科 目 名	保育指導論演習				
担 当 教 員 名	棚橋 裕子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：選択
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。</p> <p>2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例を通して自ら考えられる力量を身につける。</p>				
授 業 の 概 要	<p>保育指導論で学んだ知識をさらに深めるための講義を受けた上で、いくつかの事例について、グループワークやディスカッションを通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が優れた指導方法であるかどうかを判断する。これを踏まえた集団的討議は、反省的保育者あるいは実践的研究者となる礎を築くものであり、保育者に求められる協働性を培うことにもつながる。また、幼児教育のカリキュラムデザインについて、討議や演習を通し実践的な理解を深める。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 主体性を育む遊びと保育 3 子ども理解に基づく保育者の役割～未満児の実践事例から～ 4 子ども理解に基づく保育者の役割～以上児の実践事例から～ 5 子どもの育ちと保育形態 6 記録から子どもの遊びと育ちを理解する～フィールドワーク準備～ 7 記録から子どもの遊びと育ちを理解する～フィールドワーク実践～ 8 記録から子どもの遊びと育ちを理解する～フィールドワーク振り返り～ 9 記録から子どもの遊びと育ちを理解する～写真記録から～ 10 保育計画の立案、省察、修正の必要性 11 保育記録と保育計画の関係性 12 子どもの遊びと保育計画～準備～ 13 子どもの遊びと保育計画～実践～ 14 子どもの遊びと保育計画～まとめ～ 15 全体のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>予習：事前に各自でシラバスを確認の上、必要な情報について調べたり収集したりしておくこと。</p> <p>復習：各自、またはグループで振り返りを行い、必要な情報についてまとめたり共有したりすること。</p> <p>受講者の関心動向によって、内容構成や順序等の変更がある場合がある。</p>				
学 生 に 対 する 評 価	<p>授業内レポート 20 点、期末レポート 50 点、グループワーク等における積極的姿勢（ルーブリック/30 点）により評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>適宜、資料を配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	家庭支援実践演習				
担当教員名	傳馬 淳一郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択
実務経験及び授業内容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について事前に講義し、子育て支援の場に演習として参加する。現場の保育士から子育て支援における保育者の役割について指導を受け、実際の親子に関わりながら家庭支援における保育士の役割を経験的に学ぶ演習科目				
学習到達目標	(1) 子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。 (2) 子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援を理解する。 (3) 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を学ぶ。 (4) 地域子育て支援センターなど家庭支援の実際に触れながら、保育士の役割と専門性について学ぶ。				
授業の概要	家庭支援は保育所のみが行うものではなく、地域には様々な取り組みがある。保育士は、時にそれらをコーディネートする役割をもつ。この演習科目では、フィールドワークを行い、名寄地域での取り組みから家庭支援のあり方を実践的に学ぶ。 予習として、必修科目「子ども家庭支援論」で学ぶ内容を振り返り、演習に備える。復習として、振り返り（日誌）の提出を行う。				
授業の計画	1 オリエンテーション 2 名寄市における子育て支援の実際 3 家庭支援の実際と保育士の役割 4 演習：フィールドワーク（1）子育て支援センターの実際、保育士の役割を知る 5 演習：フィールドワーク（2）親子の実際を知る～振り返り 6 演習の振り返り～子育て家庭の実際と子育て支援センターの実際～ 7 演習に向けての事前指導 8 演習に向けての準備①フィールドワークの振り返りと課題整理 9 演習に向けての準備②計画の立案と準備 10 演習：フィールドワーク（3）環境設定 11 演習：フィールドワーク（4）保護者とのコミュニケーションを目指して～振り返り 12 演習：フィールドワーク（5）保護者との関係づくり 13 演習：フィールドワーク（6）子育て支援をイメージしたかかわり～振り返り 14 演習の振り返り～家庭支援における保育士の役割と専門性～ 15 まとめ				
授業の留意点	講義、演習、実習を含め主体的に参加することを求めます。現場（主に地域子育て支援センター）での演習を行うため、日程の調整があります。子育て支援拠点等の子育てに関する社会資源について、事前学習を行ってください。フィールドワーク後は、各自日誌による振り返りを行い、提出を求めます。				
学生に対する評価	演習後の日誌（振り返り）提出（20点×3回）と期末レポート（40点）で評価する。				
教科書（購入必須）	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 ※子ども家庭支援論と共通				
参考書（購入任意）	中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院				

科 目 名	地域との協働 I				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な知識や背景、実践例などについて幅広く学び、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	<p>全体を2クラスに分けた大クラス講義と1学年を6クラスに分けた中クラス講義、中クラスからさらに少人数に分かれたチームと、展開する場面を回毎に設けて授業を行う。報告会では中クラス、小チーム活動について大クラスで共有をする。全体講義では保健医療福祉連携に必要なグループワーク技術や本学の歴史について学ぶ。クラス講義では学内教員によるゲストスピーカーより各教員の専門性等について紹介を受けた上で、適宜グループワークを行うことで、連携実践において必要な多角的視点を養う。チーム活動では担当教員のリードにより専門的な学習の一端を体験し、多職種理解および多職種連携のイメージを高めることを目指す。</p> <p>COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業とし、クラス分け・チーム分けを行わず全員が同じ内容の講義・演習を受講する可能性もある。その場合の内容は授業計画内容を網羅したものとする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・本学の歴史的経緯と保健医療福祉連携：市立名寄短期大学の開学と発展（大クラス講義） 2 本学の歴史的経緯と保健医療福祉連携：短大から名寄市立大学への改組と発展（大クラス講義） 3 他職種理解・チームケア（中クラス講義）その1 4 他職種理解・チームケア（中クラス講義）その2 5 多種多様な分野の理解（小チーム活動）その1 6 多種多様な分野の理解（小チーム活動）その2 7 グループワーク演習（大クラス授業） 8 講義のまとめ（大クラス授業） 				
授 業 の 留 意 点	<p>クラス・チームごとに開講日や教室が異なるため、各自が出席すべき日時と教室を把握した上で授業に出席すること。クラス講義では、話題提供と併せてグループワークを行う予定である。グループワークの取り組み方をトレーニングするための場でもあるので、一人ひとりが積極的に取り組むこと。</p> <p>遠隔授業となった場合は、オンデマンド授業として行うため受講期限および提出物の提出期限を守ること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点により評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	地域との協働Ⅱ				
担当教員名	保健福祉学部教員				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が”その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>地域との協働Ⅱでは、これらの定義に基づき、以下の2点の能力を養成する。</p> <p>第1に、この IPW の基盤となる”専門職間の成熟した人間関係”を形成する。</p> <p>第2に、「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」できるようになる。</p>				
授業の概要	<p>本講義は3つのパートから構成される。</p> <p>①IPW および IPE の概念を講義によって学び、地域活動の意義・目的について理解する。</p> <p>②少人数・学科混成グループを編成し、テーマ別に地域活動を行う。地域活動を実施する際に Project Based Learning (PBL・プロジェクト型学習) の手法を取り入れ、自ら地域課題を見出し、調査・分析や企画立案・準備、考察を実施し、その学びの結果を全受講生で共有する。</p> <p>1) 教員が提示した大テーマの中から各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する</p> <p>2) グループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する</p> <p>3) 地域活動から得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有する</p> <p>指導は担当教員のほか、地域との協働Ⅲを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>③学びを深める共通コンテンツにより講義・演習を行う。</p> <p>自らが参加した地域活動による”一つの学び”に加えて、複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」を講義・演習を通じて学び、その成果を受講者間で共有することで、より多くの事例から IPE を行う。</p>				
授業の計画	<p>1-2 オリエンテーション：講義方法の説明と地域活動のグループ分け</p> <p>3 IPW および IPE の概念について</p> <p>4 地域活動の意義と目的について</p> <p>5 グループ別ガイダンス</p> <p>6-10 グループ別地域活動</p> <p>11 グループ別地域活動のまとめ</p> <p>12-14 共通コンテンツによる学びの拡張</p> <p>15 まとめ</p>				
授業の留意点	<p>グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。</p> <p>地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」(以下行動指針) に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールや Moodle 等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。</p>				
学生に対する評価	オンライン講義にあたっては毎回の小レポート (20 点)、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート (40 点)、および最終レポート (40 点) で評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科 目 名	地域との協働Ⅲ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>地域との協働Ⅰ・Ⅱにおける学びを踏まえ、①IPW（Inter-professional Work）の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力を養成する。②「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」するための環境づくりができる能力を養成する。</p> <p>具体的にはリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>①全体講義でリーダーシップ論、マネジメント論などについて学ぶ。一部ロールプレイングやグループワークなどを取り入れて、連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。</p> <p>②協働ゼミを通じて連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。与えられた大テーマのもとで、PBL（Problem Based Learning：問題解決型学習）の手法を用いて自ら課題の析出を行い、既存研究の確認・事例調査・分析・考察・発表（学びの共有）を行う。</p> <p>③「地域との協働Ⅱ」の地域活動に連携実践のコーディネーターとして参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。</p> <p>④まとめとして、自らのコーディネーション能力について、全体講義で学んだマネジメント論等の観点から振り返りを行い、グループワークを行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p>				
授業の計画	<p>1-2 オリエンテーション</p> <p>3 専門職連携におけるマネジメント①（全体講義）</p> <p>4 専門職連携におけるマネジメント②（全体講義）</p> <p>5 専門職連携におけるマネジメント③（全体講義）</p> <p>6 専門職連携におけるマネジメント④（全体講義）</p> <p>7-8 専門職連携におけるマネジメント⑤⑥（グループワーク）</p> <p>9 協働ゼミのガイダンス</p> <p>10-16 協働ゼミグループ別活動</p> <p>17-23 地域活動におけるマネジメント実践</p> <p>24-26 共通コンテンツによる学びの拡張</p> <p>27 リーダーシップおよびマネジメント実践</p> <p>28-29 マネジメント実践の振り返り</p> <p>30 まとめ</p>				
授業の留意点	<p>グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと（詳細はガイダンス等で説明する）。</p> <p>地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」（以下行動指針）に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールやMoodle等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。</p> <p>グループごとに COVID-19 に対応したプログラムで実施予定であるが、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、オンライン講義と地域活動を組み合わせたハイブリッド形式になる可能性もある。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。</p>				
学生に対する評価	<p>全体講義にあたっては毎回の小レポート（20点）、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート（40点）、および最終レポート（40点）で評価する。</p>				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科 目 名	教育実習				
担 当 教 員 名	棚橋 裕子・高島 裕美				
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1. 幼稚園、認定こども園の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 幼稚園教諭、保育教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
授業の概要	実習を通して幼稚園、認定こども園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわりながら保育について総合的に学ぶ。				
授業の計画	1 幼稚園、認定こども園の役割と機能 (1)幼稚園、認定こども園の生活と一日の流れ (2)幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解と保育の展開 2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育内容 (4)子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 (1)指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育者の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭、保育教諭の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭、保育教諭の役割と職業倫理				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。 実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（実習指導、初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。 予習：シラバスを確認の上、必要な情報についてまとめておく。 復習：学んだことをまとめておく。				
学生に対する評価	実習先での評価（40％）実習日誌と事後レポート（30％）、受講態度（ルーブリックに基づき30％）				
教科書（購入必須）	テキスト・参考文献は、実習指導を参照				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教育実習指導				
担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美・石本 啓一郎				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 				
授業の概要	<p>本授業は、幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者を対象に、教育実習（幼稚園）の事前事後として位置づけ、幼稚園教諭としての基礎的な知識や技能、態度等を身に付けるため、実践に即した教材を通して学ぶ。事前指導では、幼稚園教育要領に基づき、幼稚園の機能や目的、保育者の役割等についての理解を深め、保育の内容や指導計画等、実践に向けた準備を行う。事後指導においては、実習の評価、反省を通して、個々の課題を明確化する。その際、グループワークを通して、専門的視点を養う。また、集大成として実習報告会を行う。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、教育実習の意義と目的 2 教育実習に必要な視点と心構え 3 様々な事例に基づいた援助の多様性と保育者の役割 4 実習日誌と記録の書き方～全体の流れ、手順、PCの使用について～ 5 実習日誌と記録の書き方～グループワーク～ 6 保育における指導計画、指導案の位置づけ 7 指導計画、指導案の作成と保育の展開～事例を通して～ 8 指導計画、指導案の作成と保育の展開～発表～ 9 実習に関する諸手続き 10 直前指導 実習前の確認事項等 11 教育実習後の振り返りと学びのおさえ、まとめに向けて 12 教育実習の振り返り～確認と今後に向けて～ 13 教育実習の振り返り～グループワーク～ 14 教育実習報告会（グループ0～4） 15 教育実習報告会②（グループ5～9） 				
授業の留意点	<p>実習指導は、実習と同等に位置付けているため、欠席・遅刻をしないようにする。 なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。 予習：事前に必要な情報についてまとめておくこと。 復習：学んだことを各自でまとめておくこと。</p>				
学生に対する評価	提出物（50%）、講義に臨む姿勢（50%/ループリック使用）				
教科書（購入必須）	<p>（保育実習指導・教育実習指導と共通） 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『新しい講座12 保育・教育実習』ミネルヴァ書房 小櫃 智子編著・田中 君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	保育実習 I				
担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博・長津 詩織・鈴木 勲・小山 貴博				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 				
授業の概要	児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。				
授業の計画	<p>< 保育実習 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割と機能（保育所保育士指針の理解と保育の展開） 2 子ども理解（1）子どもの観察とその記録による理解（2）子どもの発達の理解と援助 3 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容（2）子どもの発達過程に応じた保育内容（3）子どもの生活や遊びと保育内容（4）子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録（1）保育課程と指導計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 <p>< 居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録（2）個々の状態に応じた対応 3 養護内容・生活環境（1）計画に基づく活動や援助（2）子どもの心身の状態に応じた対応（3）子どもの活動と生活環境（4）健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録（1）支援計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理 				
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学生に対する評価	実習先からの評価 40 点、学内評価（日誌の提出、報告会での報告、報告書の提出）40 点、レポート課題 20 点。				
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房				

科 目 名	保育実習指導 I				
担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博・長津 詩織・鈴木 勲・小山 貴博				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：必修
実務経験及び授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設等）の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。 				
授業の概要	保育実習の目的および内容の理解、保育所・児童福祉施設等の理解、保育所保育指針の理解、必要な保育技術の習得をその内容とする。実習先の決定にいたるまでの手続とその指導も行う。また、事後指導では、実習の総括や評価をもとに、課題を明確にし、学内での学修との統合を図る。				
授業の計画	保育実習指導 I 保育所 <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 2 保育実習 I 保育所の目的と概要 3 保育実習の意義・目的・内容の理解 4 保育所・認定こども園の理解と実習内容（実習の段階、子ども理解など） 5 プライバシーの保護と守秘義務 6 実習に向けての心構え（服装、挨拶、ネット利用など） 7 実習記録の意義・方法の理解（日誌の記入など） 8 保育計画、保育指導の理解（園の保育計画、カリキュラムなど） 9 実習施設（保育所・認定こども園）の理解 10 実習に関する諸手続き（個人票の作成、検便・健診などの確認） 11 実習課題の明確化・直前指導（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 12 事後指導 実習内容の振り返り 13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価） 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括 	保育実習指導 I 施設 <ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習 I の目的と概要 2 児童福祉施設等（保育園以外）の予備知識希望調査 3 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（児童養護施設、乳児院） 4 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（障害児者関係等） 5 児童福祉施設等（保育園以外）での実習内容と課題 6 児童福祉施設等（保育園以外）の記録と心構え 7 子どもの人権と子どもの最善の利益の考慮 8 プライバシーの保護と守秘義務 9 実習計画作成 実習配属先決定回答書の指示事項確認 10 事後指導 個人の振り返り 11 事後指導 グループでの振り返り 12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等 13 事後指導 評価の確認 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括 			
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
学生に対する評価	実習先理解の事前学習 20 点、事前指導課題（実習計画書） 30 点、事後指導課題（日誌の提出、自己課題の提出、報告書の提出） 50 点。				
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房				

科 目 名	保育実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	傳馬 淳一郎・及川 智博				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確にする。 				
授 業 の 概 要	保育所で所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所の役割や機能の具体的展開 2 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 生活の流れや展開の把握と保育士等の支援 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己課題の明確化 				
授 業 の 留 意 点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習先からの評価 40 点、学内評価（日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出）40 点、レポート課題 20 点。				
教 科 書 (購入必須)	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ (※保育実習指導Ⅰと共通)				
参 考 書 (購入任意)	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習指導Ⅱ				
担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実務経験及び授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
授業の概要	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習Ⅱの目的と概要 2 保育所・認定こども園での実習内容（実習の段階、子ども理解、保護者支援など） 3 子どもの最善の利益と保育 4 地域社会との連携・子育て支援の事例検討 5 実習に向けての心構え（プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など） 6 実習記録の意義・方法（日誌の記入など） 7 保育計画、保育指導の理解 その1（園の保育計画、カリキュラムなど） 8 保育計画、保育指導の理解 その2（指導案の作成） 9 保育計画、保育指導の理解 その3（模擬保育） 10 保育計画、保育指導の理解 その4（指導案の作成と模擬保育の振り返り） 11 実習課題の明確化（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 12 事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価（事務確認を含む実習内容の振り返りなど） 13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討） 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括 				
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。				
学生に対する評価	実習先理解の事前学習 20点、事前指導課題（実習計画書） 30点、事後指導課題（日誌・指導案の提出、自己課題の提出、報告書の提出） 50点。				
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ （※保育実習指導Ⅰと共通）				
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房				

科 目 名	保育実習Ⅲ				
担 当 教 員 名	長津 詩織・鈴木 勲・小山 貴博				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童養護施設等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 				
授 業 の 概 要	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> （1）受容し、共感する態度 （2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 （3）個別支援計画の作成と実践 （4）子どもの家族への支援と対応 （5）多様な専門職との連携 （6）地域社会との連携 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化 				
授 業 の 留 意 点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各施設の留意事項を順守すること。				
学 生 対 する 評 価	実習先での評価 50 点、提出物 50 点				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』				

科 目 名	保育実習指導Ⅲ				
担 当 教 員 名	長津 詩織・鈴木 勲・小山 貴博				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	保育士：選択必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	児童養護施設等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
授 業 の 概 要	児童福祉施設等(保育所以外)の基本的な理解、実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解、施設機能と保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。実習の事後指導には、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設実習Ⅲのあり方 2 児童福祉施設（保育園以外）の予備知識 希望調査 3 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ 4 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ 5 児童福祉施設（保育園以外）での実習内容 6 児童福祉施設（保育園以外）の記録と心構え 7 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 8 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 9 子どもの状態に応じた適切なかわり 10 保育士の専門性と職業倫理 11 実習前最終確認 12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等の確認 13 事後指導 評価の確認 14 事後指導 課題の明確化 15 実習総括 				
授 業 の 留 意 点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。対面、場合によっては遠隔。				
学 生 対 する 評 価	講義内での課題 50 点、その他の提出物 50 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社				
参 考 書 (購 入 任 意)	全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』				

科 目 名	卒業研究				
担 当 教 員 名	社会保育学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	4 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的、論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明確にする。 ・ 四年間の学びを踏まえて設定した研究テーマに基づき、卒業論文を作成する。 				
授 業 の 概 要	科学的・論理的な思考及び表現を用いて研究課題を明らかにし、四年間の学習・演習・実習を踏まえて設定した研究テーマに基づき、研究計画を立て、卒業研究を行う。担当教員の指導のもと、研究計画書の作成から論文作成、発表までの過程について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業研究に関するオリエンテーション ・ 卒業研究課題の決定 ・ 研究計画の作成 ・ 調査、研究の実施 ・ データの整理および分析 ・ 卒業論文の本文作成 ・ 卒業論文の提出および発表 				
授 業 の 留 意 点	卒業研究に関わるガイダンス及び研究室紹介は、3年次に行うので、掲示等による指示に従うこと。				
学 生 に 対 する 評 価	取り組み状況、卒業論文及び発表の内容により総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	担当教員の指示による。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教職・保育実践演習				
担 当 教 員 名	石本 啓一郎・糸田 尚史・及川 智博・高島 裕美・棚橋 裕子・傳馬 淳一郎・堀川 真三国 和子・三井 登				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	1年次からの学修内容を省察することで、教育・保育者として必要な専門性を確認すると同時に、引き続き、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を明確化する。				
授 業 の 概 要	フィールドワークをとおして現場の実践者と語り合う会、学生主体による「シンポジウム」の開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振り返り、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見していく。 さらに、保育者として求められる4つの事項（①教育者としての使命感や責任感 / ②社会性や対人関係能力 / ③子ども理解やクラス経営、また職員・地域・家庭との連携 / ④教科・保育内容等の指導力）について、全15回を通じて総合的に学修する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakションー4年間の学修を捉えなおす講義としてー 2 「社会保育」を考える（1）ー領域横断講義 社会編ー 3 「社会保育」を考える（2）ー領域横断講義 臨床編ー 4 幼児理解のあり方を再考する 5 家庭・地域との連携を再考する 6 児童養護に携わる職員と語りあう 7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう 8 保育と地域とのつながりを考える（1）ーフィールドワーク事前準備ー 9 保育と地域とのつながりを考える（2）ーフィールドワークー 10 保育と地域とのつながりを考える（3）ーフィールドワーク総括ー 11 4年間の学びを振りかえる（1）ーシンポジウム企画ー 12 4年間の学びを振りかえる（2）ーシンポジウム事前準備ー 13 4年間の学びを振りかえる（3）ー4年生最終シンポジウム 1日目ー 14 4年間の学びを振りかえる（4）ー4年生最終シンポジウム 2日目ー 15 教職・保育実践演習まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻をしないよう十分に留意すること。 ・これまでの4年間の学修内容について自ら振り返ろうとする受講態度が求められる。 				
学 生 に 対 す る 評 価	提出課題（90点）、授業・学びについてのコメントの提出（10点）				
教 科 書 （購入必須）	指定しない。				
参 考 書 （購入任意）	各内容に応じて、その都度指示・提示する。				